

# 2022年加盟学協会の活動調査解析報告書

令和4年10月

## 男女共同参画学協会連絡会

第20期幹事学会（日本生物物理学会：須藤雄気，原田慶恵）

本報告書は、令和4年9月に実施した、「2022年加盟学協会の活動調査」の解析結果について、男女共同参画学協会連絡会がとりまとめたものです。本報告書の著作権は、男女共同参画学協会連絡会に帰属しており、本報告書の全部または一部の無断複製などの行為は法律で認められる場合を除き、著作権の侵害にあたります。引用の際には必ず巻末の記載事項にしたがって下さい。

## 調査結果

男女共同参画学協会連絡会では、加盟学協会の活動調査を偶数年に継続して行っている

[<https://djrenrakukai.org/enquete.html#activity> (これまでの調査結果)]。本年は、各学協会の現状をより詳しく把握するために、新たな質問項目を加えた。調査の実施に関しては、所属する学協会の構成員に対し、令和4(2022)年9月6日から9月30日の期間を設け、Google Formsにアクセスし、項目に答える形式により実施した。

### 学協会の活動調査 (基本情報)

#### ✓学協会名

正式加盟学協会(54) およびオブザーバー加盟学協会(66) 計120学協会のうち、正式加盟学協会(47) オブザーバー加盟学協会(40) 計87の以下に示す学協会から回答を得た(回答率:75%)。

~~~~~

002 化学工学会、003 高分子学会、006 日本化学会、007 日本原子力学会、009 日本女性科学者の会、010 日本植物生理学会、011 日本数学会、013 日本生態学会、014 日本生物物理学会、015 日本生理学会、016 日本蛋白質科学会、018 日本動物学会、020 日本比較内分泌学会、021 日本物理学会、023 日本森林学会、024 地球電磁気・地球惑星圏学会、025 日本神経科学学会、028 日本育種学会、029 日本結晶学会、030 日本地球惑星科学連合、031 日本繁殖生物学会、032 生態工学会、033 錯体化学会、034 日本進化学会、035 日本遺伝学会、036 日本建築学会、037 種生物学会、038 日本獣医学会、040 日本魚類学会、041 日本畜産学会、043 日本木材学会、044 日本技術士会、045 日本植物学会、046 園芸学会、047 日本農芸化学会、048 日本解剖学会、050 日本中性子科学会、052 「野生生物と社会」学会、055 日本熱帯医学会、056 日本応用数理学会、057 日本衛生学会、058 日本健康学会、059 日本内分泌学会、060 日本国際保健医療学会、061 日本海洋学会、063 日本熱帯生態学会、064 日本加速器学会、104 精密工学会、105 地盤工学会、107 日本データベース学会、109 日本磁気学会、111 日本機械学会、112 日本金属学会、113 日本女性技術者

フォーラム、114 日本鉄鋼協会、119 日本科学者会議、123 日本バイオインフォマティクス学会、126 日本鳥学会、127 日本放射光学会、130 歯科基礎医学会、134 日本植物バイオテクノロジー学会、135 日本組織細胞化学会、137 応用物理学会、140 プラズマ・核融合学会、141 日本数式処理学会、142 日本植物病理学会、144 日本蚕糸学会、145 日本霊長類学会、147 日本放射線影響学会、148 日本 DNA 多型学会、149 日本食品科学工学会、150 日本腎臓学会、151 日本薬学会、152 日本脂質栄養学会、153 軽金属学会、154 日本科学教育学会、157 日本分子生物学会、158 日本神経化学会、162 日本水産学会、164 日本生化学会、165 日本痛風・尿酸核酸学会、167 日本地質学会、168 日本コンピュータ外科学会、169 日本大気化学会、171 日本統計学会、172 日本気象学会、173 有機合成化学協会

-----

#### ✓男女共同参画委員会・ワーキンググループ等の有無

アンケートに回答した 87 の学協会に、男女共同参画委員会やワーキンググループ等を設置しているかを尋ねたところ、86.2%が「ある」と答えた。過去の調査と比べて「ある」の割合が継続的に増加しているものの、13.8%の学協会が「ない」と回答している。

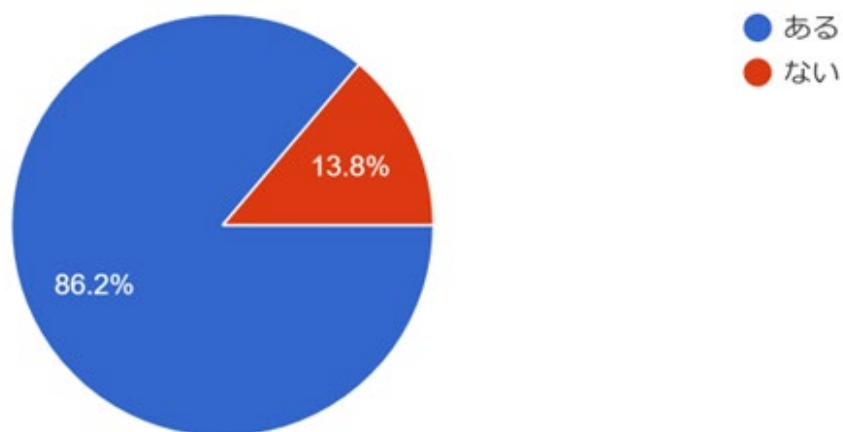


図 1. 男女共同参画委員会・ワーキンググループ等の有無

## 学会賞について

### ✓賞の有無とその種類

アンケートに回答した 87 の学協会に対し、学会における賞の有無と種類を尋ねた（図 1）。「授与する賞は無い」の回答が 2 学協会（2.3%）であり、残りの 85 学協会（97.7%）は何らかの賞を設けている。女性賞は、16 学協会（18.4%）で設けられていた。その他の賞についての回答は、18 学協会（20.7%）であった。

#### どのような賞がありますか

87 件の回答

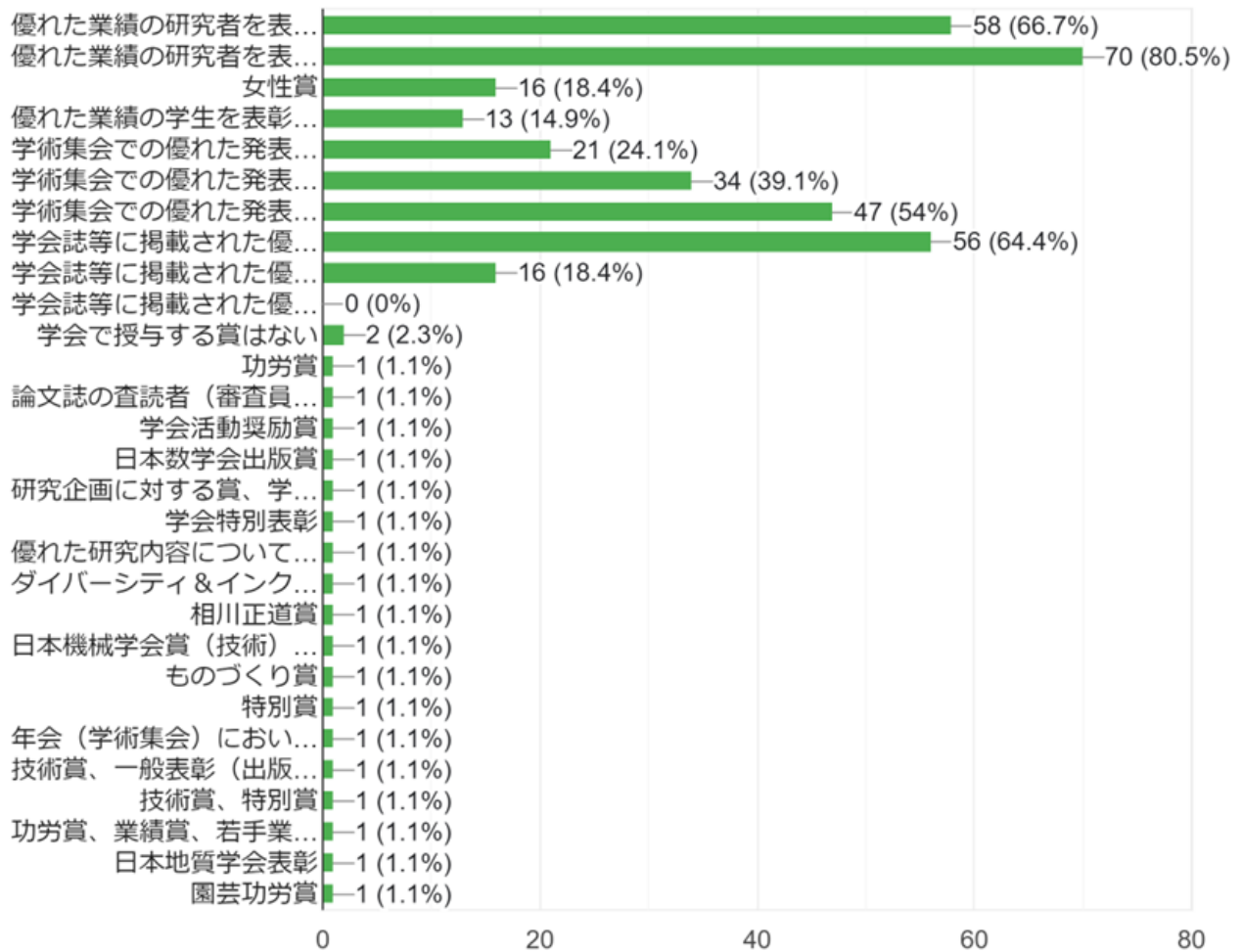


図 2. 賞の有無と種類

上から順に以下の通りである：

- 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）
- 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限あり）
- 女性賞
- 優れた業績の学生を表彰する賞
- 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）
- 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）
- 学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞
- 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）
- 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）
- 学会誌等に掲載された優れた論文の学生著者に対する賞 学会で授与する賞はない
- その他

✓女性賞の名称設置年および内容（顕彰の目的、副賞や研究助成金、人数の上限など）

女性賞を設置していると回答した 16 の学協会に対し、設置年およびその内容を尋ねた。以下が回答である。

~~~~~

・紅宝賞（女性研究者研究業績賞） 2018 年（平成 30 年）に設置した。プラズマ・核融合学会が発行の学会誌、または英文論文誌に、プラズマ・核融合に関する優秀な原著論文、及び卓越したレビュー論文を掲載した女性の論文筆頭者個人を顕彰する。1 件程度/年を授与し、現在は時限的に副賞賞金 10 万円を贈呈している。

・軽金属女性未来賞、平成 21 年(2009 年)、45 歳以下、軽金属分野において学術研究または技術開発に顕著な功績を挙げ、将来の活躍が期待される女性研究者または女性技術者、楯贈呈、原則 1 名/年

・農芸化学女性研究者賞：農芸化学分野で顕著な研究成果をあげた女性研究者で、これからも高い研究成果をあげて農芸化学研究の発展に寄与するとともにキャリアアップが期待される女性研究者に授与。2017 年設立、副賞あり。3 名まで。・農芸化学若手女性研究者

賞：農芸化学分野で優れた研究成果をあげた女性研究者で、表彰年度の4月1日時点で満40歳以下の者に授与。2017年設立、副賞あり。3名まで。・農芸化学女性企業研究者賞：企業において優れた研究あるいは商品開発における顕著な成果に貢献した女性正会員に授与。チームの一員として挙げた成果もこの賞の対象となる。2017年設立、副賞無し。3名まで。

・岩崎民子賞、2011年度より放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するため。副賞10万円、原則1名。

・日本動物学会女性研究者奨励OM賞：設置年2001年。日本動物学会に大場方子(OM)氏より寄せられた寄附を基金とし、女性研究者による動物学発展への新たな試みを奨励することを目的とする。特に、安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする優れた女性研究者を支援する。原則として年間2名に授与され、賞状と副賞として50万円が贈呈される。

・優秀女子学生賞、2014年設置、内容（顕彰の目的：木材学とそれに関連する分野で、優れた研究業績を収めて将来を嘱望される本学会女子学生会員を支援するため、副賞として木製品を贈呈、原則2名以内）。

・女性研究者奨励育成貢献賞（小館香椎子賞）2010年設置 目的：学会活動を通じ、（A部門）応用物理学分野の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者、技術者、または、（B部門）男女共同参画活動の推進、人材育成に貢献することで科学技術の発展に大いに寄与した研究者、技術者を顕彰することを目的とする。副賞：賞状・盾 A部門：1件、B部門：若干名 ※2022年から、ダイバーシティ&インクルージョン賞に発展的改称。

・日本熱帯医学会女性賞、平成30年設置、目的：「熱帯医学の分野で国際的な業績を上げている女性に対して表彰するもの」、副賞：ブローチ、研究助成金：なし、人数上限：特に定めていないが1-2名と思われる。

・日本機械学会女性未来賞 設置年：2017年3月 顕彰の目的：日本機械学会では大学院博士（後期）課程に在学中の本会女性会員の方々に対する奨励として、これまでの業績評価

も含め、将来における本会での活動や当該分野への貢献の可能性に期待し表彰する顕彰制度を設けています 副賞：あり 贈賞の件数：毎年若干名。

・米沢富美子記念賞 設置年：2020年 目的：女性会員の物理学分野における活動を讃え奨励するため 副賞：(1) 向こう3年間の大会参加費・概要アクセス権、(2) JPSJ掲載料・オープンアクセス化権もしくはPTEP掲載料から総計20万円分の免除（受賞後の投稿につき3年間有効） 人数上限：5名。

・日本薬学会女性薬学研究者奨励賞 2022年度設置 アカデミア領域においては教授・准教授を除く職位、医療現場においては部長・副部長を除く職位、企業においてはこれらに準ずる職位の女性研究者であり、薬学の基礎および応用に関し、優れた研究成果をあげた女性研究者で、これからも高い研究成果をあげることで薬学研究の発展に寄与するとともにキャリアアップが期待される女性研究者。

・入澤彩記念女性生理学者奨励賞（入澤彩賞） ・設置年：2010年 ・内容（目的）生理学女性研究者の草分けとして長年研究に尽くされ、女性生理学者の育成に努められた故人入澤彩先生から追贈された資金をもとに、優れた女性生理学者の研究を奨励することを目的（副賞）2020年度まで100万円、2021年度以降50万円（人数）2020年度まで1名、2021年度以降 若手枠と中堅枠各1名で合計2名。

・女性科学者奨励賞。2013年。化学の専門性を活かした学術研究に傑出した業績と貢献がある者で、社会貢献にも努め、国内外での研究活動・交流を通して我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、将来の科学者・技術者を目指す学生や若手研究者の目標となる本会女性の会員を対象とし、年齢が受賞の年の4月1日現在において満40歳に達していない者に授与する。表彰楯。2件以内。

・女性賞（①2011年～、②化学工学または化学関連産業に関わる技術上の優れた業績をあげ、あるいは、化学工学に関する優れた研究を行い、かつ男女共同参画推進のための制度や環境の整備に貢献した個人に贈与する。③受賞者に賞状及び賞牌を贈る。④2件）。

・設置年：2009年 目的：「JWEF 女性技術者に贈る奨励賞」（JWEF 奨励賞）は、その働きにより、既存の社会や職場での意識や風習を変革する成果をあげた若手女性技術者を表彰し、ロールモデルとして提示することを目的とした賞です。 人数：奨励賞1名/年，審査員特別賞1名（該当者がいる場合のみ）。

---

### ✓その他

その他を選択した18の学協会（図2）にその具体的な内容を尋ねた。以下に詳細を示す。

---

・農芸化学研究企画賞：農芸化学分野における新たな産業の育成をめざして、農芸化学の特徴を活かした研究領域における斬新な研究企画（テーマ）に授与。・夢にチャレンジ企画賞：自由な発想の挑戦的企画を実現するための支援を通じて、社会に貢献できる広い視野を持った若手研究者に授与。・トピックス賞：本大会で初めて公表する学術的、あるいは社会的にインパクトのある内容を含む発表に授与。

・JB編集委員会により2021年度より設けられた賞で、査読者（審査員）から年間5名を選出し賞状を授与します。1月1日～12月31日の1年間に投稿された論文の初回審査の査読を対象として、審査内容・査読回数・期日内かどうかに基づき評価します。

・熱帯研究においてとくに顕著な功績のあった個人および団体を対象とする賞（身分や年齢などの制限なし）。

・プラズマ・核融合に関する普及・啓発活動や、運営・広報等の学会活動に関連した積極的貢献が認められた個人、グループ及び団体を対象とした賞。

・軽金属学会賞、軽金属学会功労賞、小山田記念賞、高橋記念賞。

・顕著な学術業績を挙げた研究グループのリーダー，教育・啓発や研究支援において功績のあった者など，海洋学の発展に大きく貢献した学会員の表彰 海洋環境保全に関連した学術研究・教育・啓発において功績のあった学会員の表彰。



・出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰。

・学会の活動に関わる貢献（技術支援、研究支援、教育・啓発活動、多年にわたる学会への貢献等）に対する賞。

・成茂動物科学振興賞：動物学の全分野でユニークな研究を展開する研究者、特に実験系、解析系を独自に開発することで、先端的かつ国際的な動物学研究を展開している会員に授与される。国際会議発表支援川口賞：川口四郎名誉会員からの遺贈を原資として設立された。今後、活躍が期待される若手会員（大学院生を含む）を対象とし、国際学会での発表を支援するために授与される。受賞者数は毎年2名ほどであり、賞金15万円（渡航を伴う場合）または5万円（渡航を伴わない場合）が授与される。動物学教育賞：活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体に授与され、その功績を表彰することを目的とする。

・優れた研究内容について、企業からの助成金でバックアップする。

・統計活動賞、統計教育省、出版賞、ISI記念奨励賞（国際学会参加費補助）。

・地域学術振興賞（地域において木材に関する学術研究の振興または学術研究成果の普及に貢献した会員個人に授与される。1992年度創設。）、技術賞（木材及びその関連物質に関する技術について、優秀な研究、発明又は開発を行った本会会員（個人またはグループ）に授与される。1999年創設。）。

・ダイバーシティ&インクルージョン賞（上述の通り） 支部・分科会・研究会・新領域Gp等の賞（多数）。

・JSCAS AI Challengeは、コンピュータ外科分野のAI課題を設定し、正答率の高かったチームを表彰する。CAS Young Investigator Award 富士フィルムヘルスケア賞は、本分野で活躍の著しい若手研究者（原則40歳以下）に対して表彰する。講演論文賞は、本会学術集会において発表された講演論文の中から本会の対象とする領域における学問および技術に大きな貢献をする講演論文の著者を表彰する 論文賞は、本会の対象とする領域にお

ける学問および技術に大きな貢献をする論文の著者を表彰するもので、本会の機関誌に発表された論文（寄稿に限る）のうち特に優秀なものを選びその著者に贈呈する。

・故相川正道博士のマラリア学における功績を記念して、マラリア学の発展に寄与した研究・業績に対して表彰するもの。

・日本機械学会賞（技術）：（対象）機械工業に関し数年以内に完成した新技術で、画期的な新製品の開発、製品の品質または性能の向上あるいは生産の向上に寄与し経済および社会的貢献の大きいもの。 日本機械学会教育賞：（対象）機械工学・工業分野に関わる教育活動（指定あり）において顕著な業績をあげた会員個人またはグループ。 標準事業表彰：（対象）日本機械学会の基準〔規準・規格・指針類、国際標準(ISO)原案、日本産業規格(JIS)原案等〕の作成、または普及に顕著な貢献をされた個人 学生員増強功労者表彰：学生員の増強活動を積極的に進められた方々を表彰（申請の多くは個人ではなく学校） 日本機械学会優秀製品賞：（対象）機械あるいは機械システムに関連した製品（条件等あり）。

・ものづくり賞：精密工学の分野で、社会的価値の高い製品や技術を開発した中小・中堅企業等に対し、その精進と努力に報いるとともに、更なる発展を支援することを目的として贈賞する。

・学術集会で発表された優れた論文に対する賞（著者の身分や年齢などの制限なし）。

・植物科学や日本植物学会の発展に対して様々な方面（技術、教育、その他の3分野）から貢献した個人もしくは団体への賞。

・若手優秀発表賞、優秀ポスター賞など。

・優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）：日本地球惑星科学連合フェロー/日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）、優れた業績の研究者を表彰する賞

（身分や年齢などの制限あり）：地球惑星科学振興西田賞、学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞：学生優秀発表賞、学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する

賞（身分や年齢などの制限なし）：The Most Cited Paper Award/The Most

Accessed/Downloaded Paper Award。

・技術賞（機関も対象の表彰）、一般表彰（出版物・学会への功労・地盤工学への貢献・学会活動に対する表彰）。

・(1) 奨励賞：主として若手研究者を対象とし、特に主体性、意欲が顕著と認められる、加速器の物理および技術に関する優れた研究（博士論文を含む）に対して授与する。(2) 技術貢献賞：加速器の建設、運転、利用の高度化、製造技術の開発等に対する寄与が顕著と認められる技術的貢献に対して授与する。複数名（3名程度）の共同による貢献に対しても授与するが、その場合には個人の役割と業績が明確であることを要する。(3) 特別功労賞：加速器の建設、運転、開発、利用、普及等において、これらを支えることに尽力し、加速器分野の発展に大きく貢献した長年の功績に対して授与する。(4) 日本加速器学会年会賞（口頭発表部門、ポスター部門）：研究活動・研究者生活の初期段階にある、学生および若手研究者を奨励することを目的として第9回年会から年会会期中の発表にたいして表彰をおこなっている。

・技術賞はバイオテクノロジー分野におけるブレイクスルーとなるような技術開発に送られる。特別賞は社会的な貢献が認められる内容に対する賞である。

・功労賞→我が国のデータベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興をはかり、もって学術、文化、ならびに産業の発展に大いに寄与された方への功労を賞するためのもの。業績賞→我が国のデータベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の産業化をはかり、もって産業の発展に大いに寄与された一般社団法人日本データベース学会（以下本会と略す）の維持会員の業績を賞するためのもの 若手業績賞→は一般社団法人日本データベース学会（以下、本会と略す）の活動に多大なる貢献をしてきた若手会員を賞するもの。

・地質学の教育活動、普及・出版活動、新発見および露頭保全、あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった会員および非会員の個人、団体および法人。

- ・ 金属およびその関連材料の工業に関する独創性に富む新技術・新製品の技術開発に優れた実績を挙げた技術者に対する授賞。
- ・ 園芸に関する産業の発展または出版活動などに顕著な功績のあった会員、非会員および団体に授与する賞。
- ・ 日本女性科学者の会 功労賞。
- ・ サイエンス・インカレ 日本技術士会会長賞。

## 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）を設けていると回答したのは58学協会（66.7%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数の結果が、図3である。該当しない（わからない）の回答が、32学協会あった。受賞者総数は「2～115」の範囲にあり、学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は1088であった。

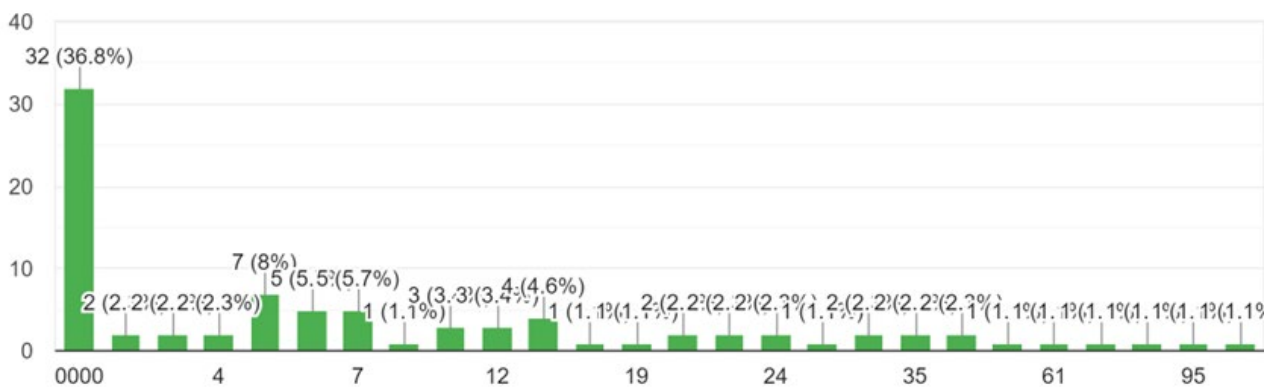


図3. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限なし）

#### √過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数

図3に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数を尋ねた結果が図4である。該当しない（わからない）の回答が、33学協会あった。女性受賞者数は「0～10」の範囲にあり、「0」の学協会が24あった。女性受賞者総数は51であった。全受賞者総数（1088）に比して、女性受賞者数の割合は、4.7%と極めて低いことがわかった。

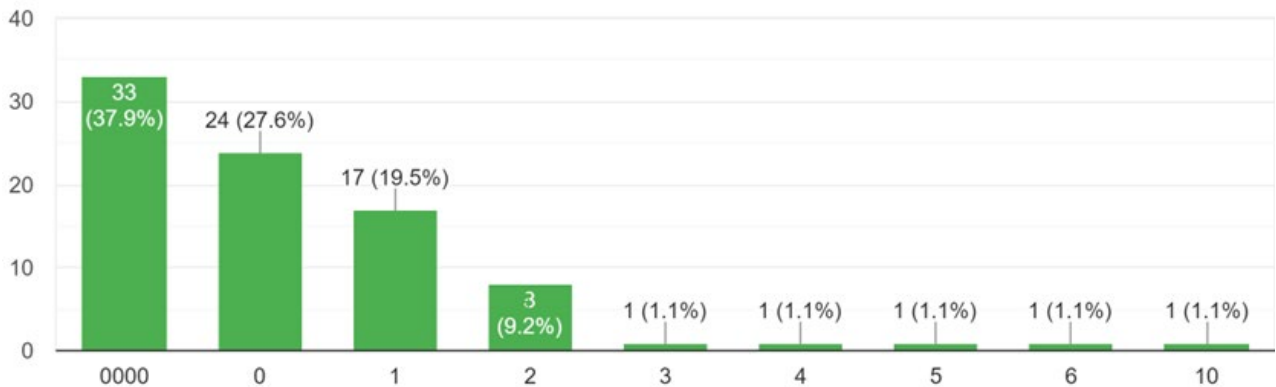


図4. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数（身分や年齢などの制限なし）

### 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

#### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限あり）を設けていると回答したのは70学協会（80.5%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数を尋ねた結果が、図5である。該当しない（わからない）の回答が、17学協会あった。受賞者総数は「0～232」の範囲にあり、学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は2275であった。

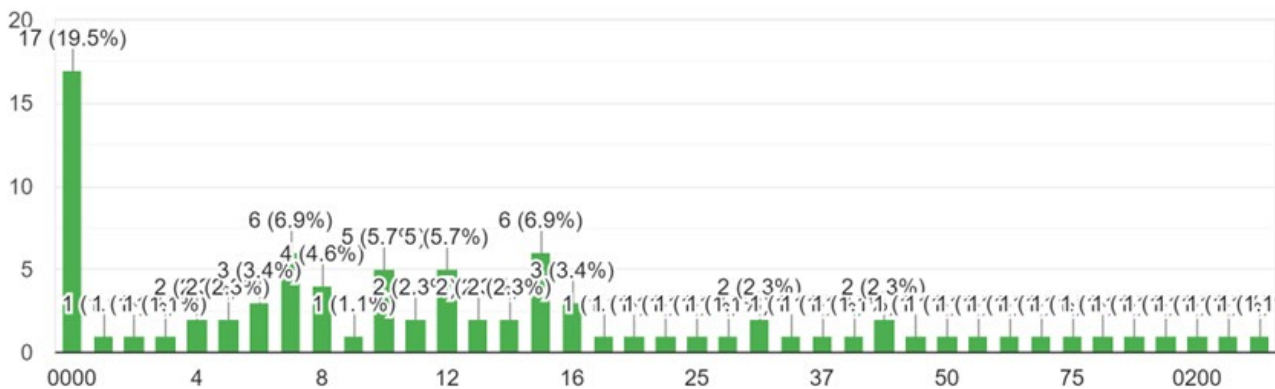


図5. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限あり）

√過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数

図5に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数を尋ねた結果が図6である。該当しない（わからない）の回答が、19学協会あった。女性受賞者数は「0～14」の範囲にあり、「0」の学協会が14あった。女性受賞者数の合計は207であった。全受賞者総数（2275）に比して、女性受賞者数の割合は、9.1%と低いことがわかった。一方で、「制限なし」（4.7%）と比べて、「制限あり」（9.1%）の方が女性受賞者の割合が大きく、一定の制限を設けることにより女性受賞者の割合が高くなることが示された。

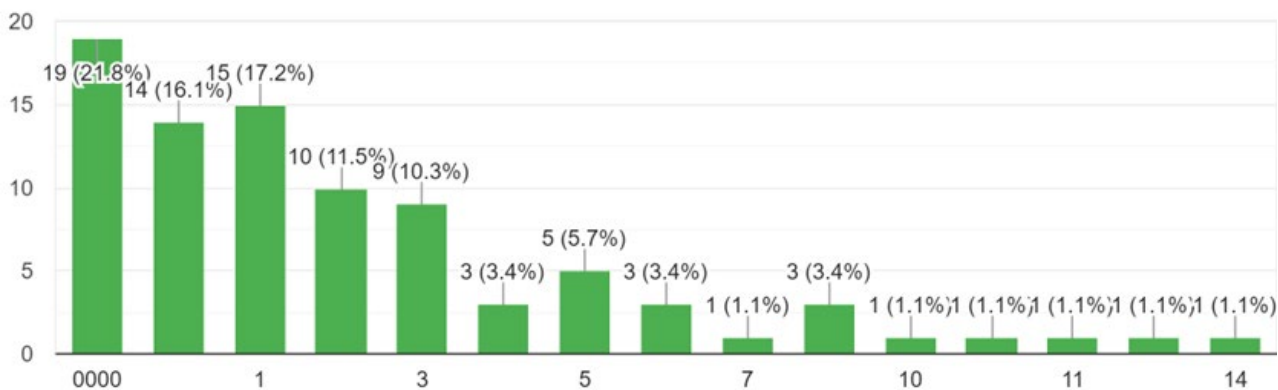


図6. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数  
（身分や年齢などの制限あり）

## 優れた業績の学生を表彰する賞の受賞者の女性比率

### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

優れた業績の学生を表彰する賞を設けていると回答したのは13学協会（14.9%）（図2）であった。図7は過去5年間の受賞者総数の分布である。該当しない（わからない）の回答が、78学協会あった。受賞者総数は「4～2758」の範囲にあり、学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は3223であった。

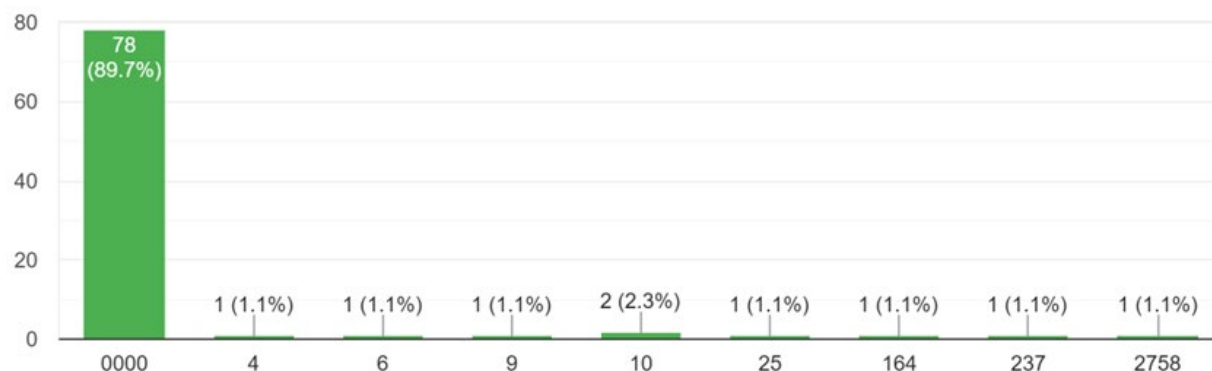


図7. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（学生）

### √過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数

図7に示した受賞者総数のうち、女性の受賞者の数が図8である。該当しない（わからない）の回答が、78学協会あった。女性受賞者数は「0～220」の範囲にあり、「0」の学協会が1あった。女性受賞者総数の合計は288であった。全受賞者総数（3223）に比して、女性受賞者数の割合は、8.9%と低いことがわかった。

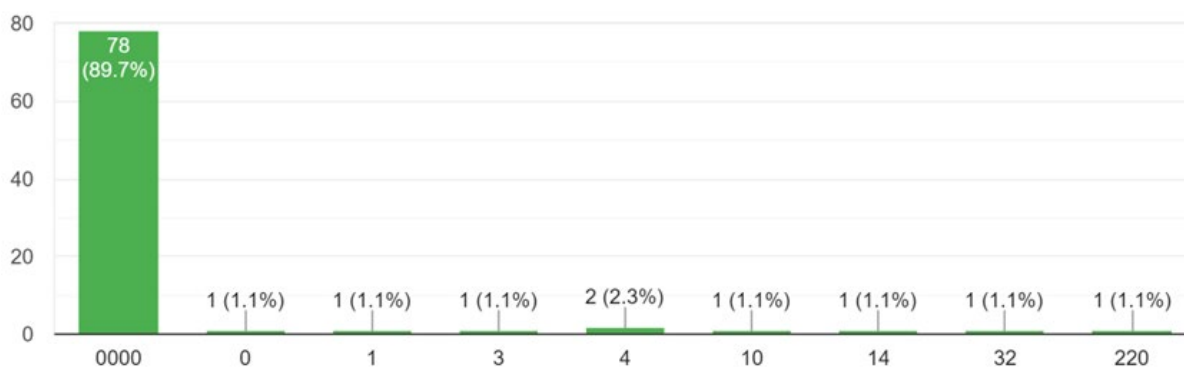


図8. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数（学生）

## 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）を設けていると回答したのは21学協会（24.1%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数の結果が、図9である。該当しない（わからない）の回答が、71学協会あった。受賞者数は「0～520」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅を持っていた。受賞者総数の合計は1428であった。

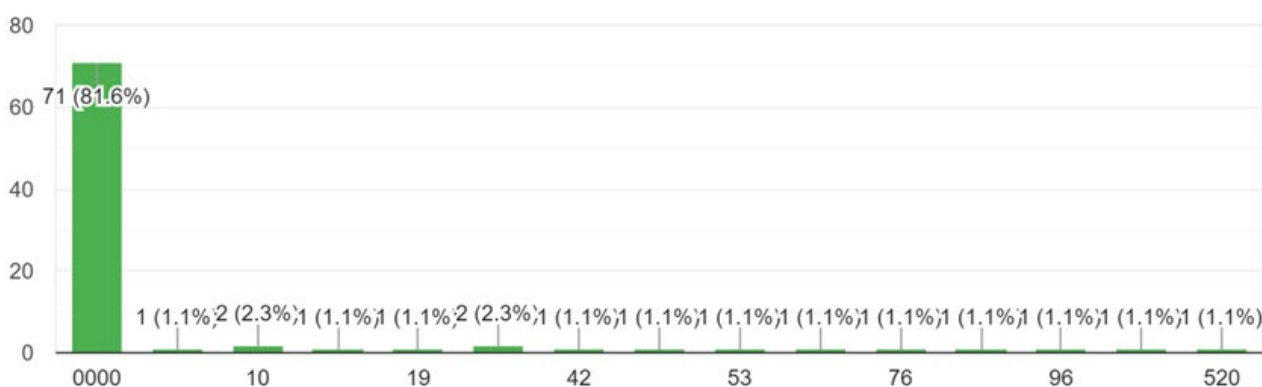


図9. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限なし）

### √過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数

図9に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数を尋ねたのが図10である。該当しない（わからない）の回答が、72学協会あった。女性受賞者数は「0～53」の範囲にあり、「0」の学協会が2あった。女性受賞者数の合計は163であった。受賞者総数（1428）に比して、女性受賞者数の割合は、11.4%であった。この値は、上述の研究業績に与えられる賞（図2～8）における女性受賞者の割合と比べて高かった。



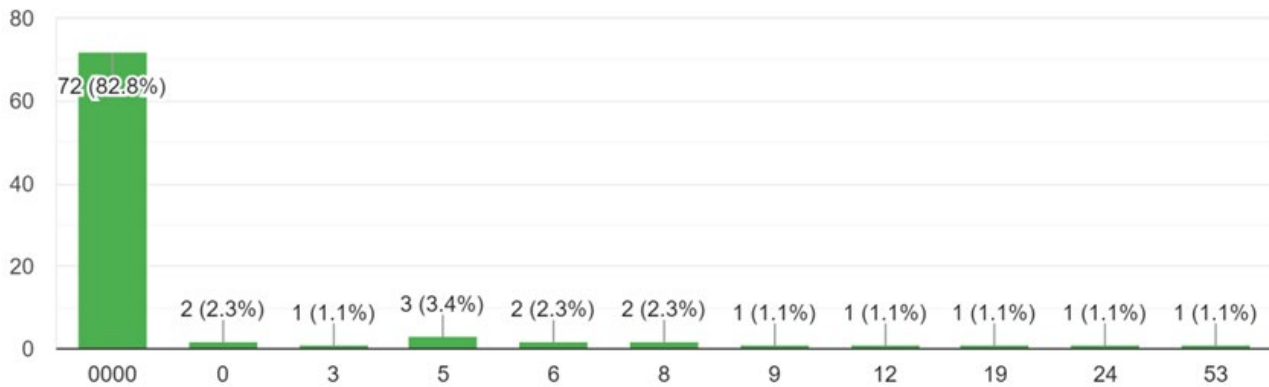


図10. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数  
（身分や年齢などの制限なし）

## 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）を設けていると回答したのは34学協会（39.1%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数の結果が、図11である。該当しない（わからない）の回答が、57学協会あった。受賞者総数は「1～298」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は1334であった。

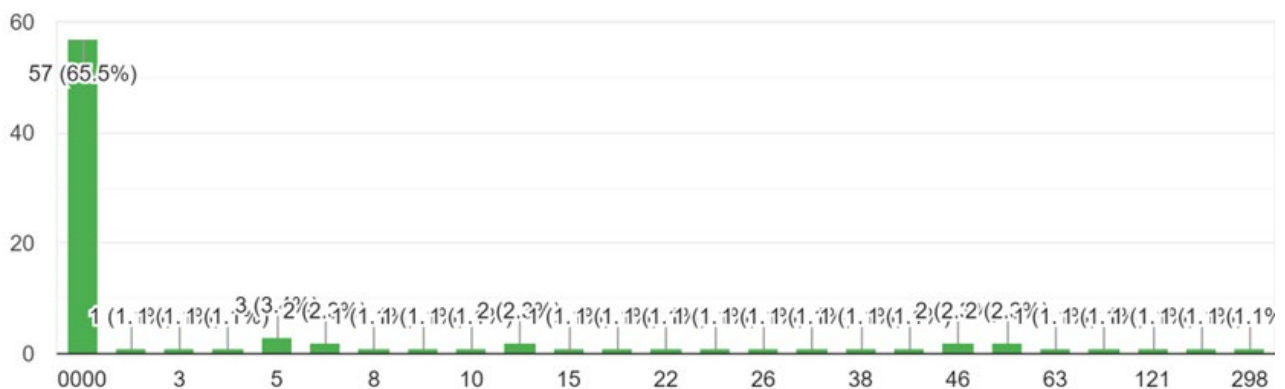


図 1.1. 過去 5 年間（2017～2021 年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限あり）

✓過去 5 年間（2017—2021 年度）の女性受賞者の数

図 1.1 に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数が図 1.2 である。該当しない（わからない）の回答が、59 学協会あった。女性受賞者数は「0～80」の範囲にあり、「0」の学協会が 3 あった。女性受賞者数の合計は 270 であった。受賞者総数（1334）に比して、女性受賞者数の割合は、20.2% であった。「制限なし」（11.4%）と比べて、「制限あり」

（20.2%）の方が女性受賞者の割合が大きく、一定の制限を設けることにより女性受賞者の割合が高くなることが示された。この値は、先に述べたように研究業績に与えられる賞（図 2～8）における女性受賞者の割合と比べて高かった。

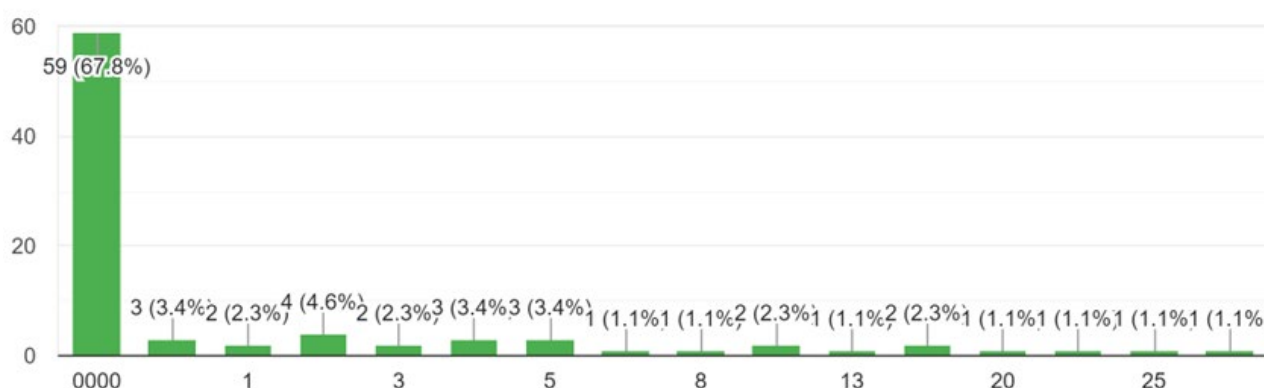


図 1.2. 過去 5 年間（2017～2021 年度）の女性受賞者の数

（身分や年齢などの制限あり）

## 学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞の受賞者の女性比率

✓過去 5 年間（2017～2021 年度）の受賞者総数

学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞を設けていると回答したのは 47 学協会（54.0%）（図 2）であった。過去 5 年間の受賞者総数が、図 1.3 である。該当しない（わからない）の回答が、52 学協会あった。受賞者総数は「0～483」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は 3821 であった。

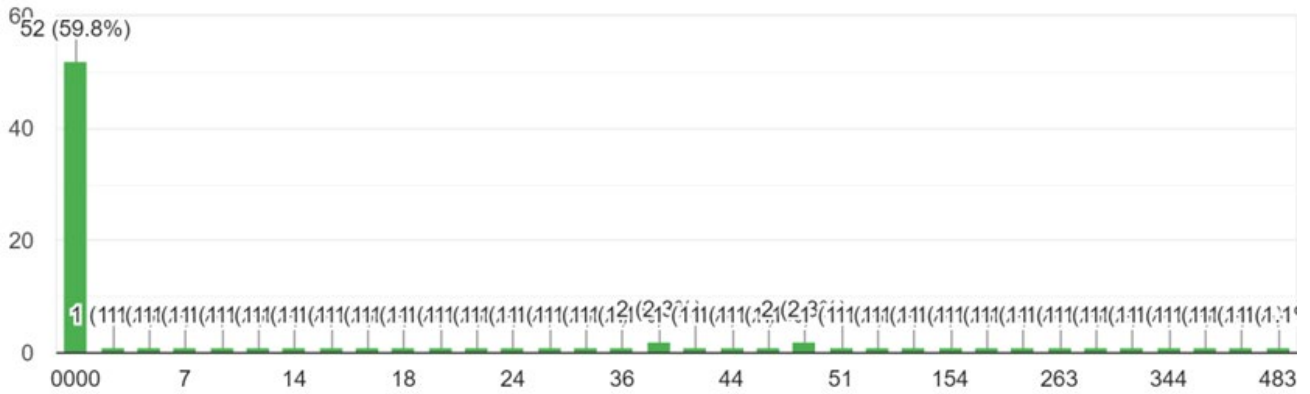


図 1 3. 過去 5 年間 (2017~2021 年度) の受賞者総数 (学生)

√過去 5 年間 (2017~2021 年度) の女性受賞者の数

図 1 3 に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数が図 1 4 である。該当しない (わからない) の回答が、54 学協会あった。女性受賞者は「0~122」の範囲にあり、「0」の学協会が 1 あった。女性受賞者数の合計は 755 であった。受賞者総数 (3821) に比して、女性受賞者数の割合は、19.8% であった。学術集会で優れた発表を行った研究者に対する賞 (身分や年齢などの制限あり) の受賞者の女性比率 (20.2%) とほぼ同じであった。

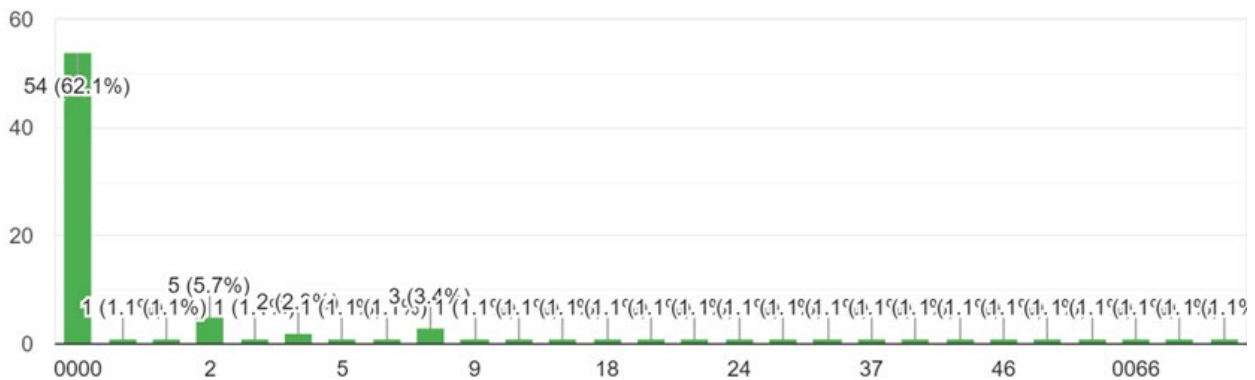


図 1 4. 過去 5 年間 (2017~2021 年度) の女性受賞者の数 (学生)

## 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）を設けていると回答したのは56学協会（64.4%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数の結果が、図15である。該当しない（わからない）の回答が、35学協会あった。受賞者総数は「0～289」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅を持っていた。受賞者総数の合計は2214であった。

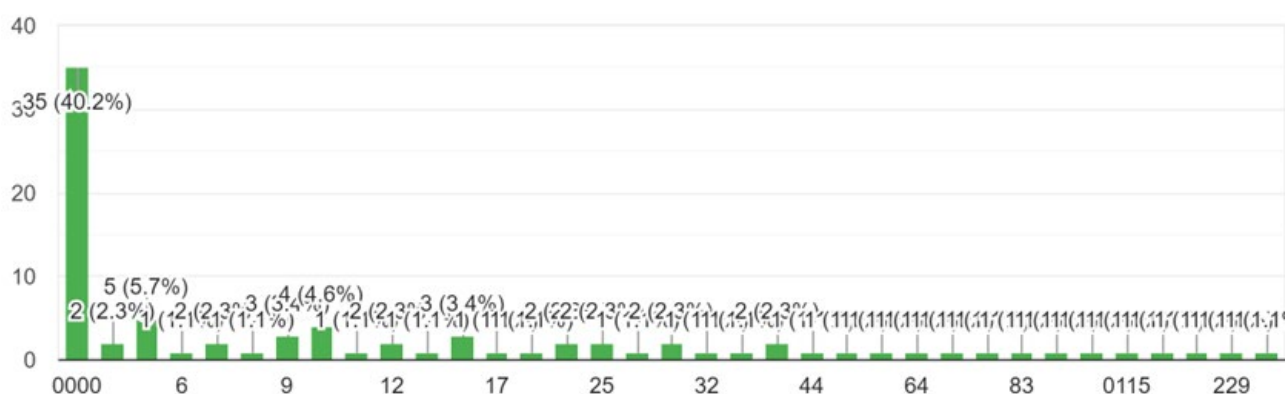


図15. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限なし）

### √過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数

図15に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数が図16である。該当しない（わからない）の回答が、40学協会あった。女性受賞者数は「0～20」の範囲にあり、「0」の学協会が4あった。女性受賞者数の合計は213であった。受賞者総数の合計（2214）に比して、女性受賞者数の割合は、9.6%であった。

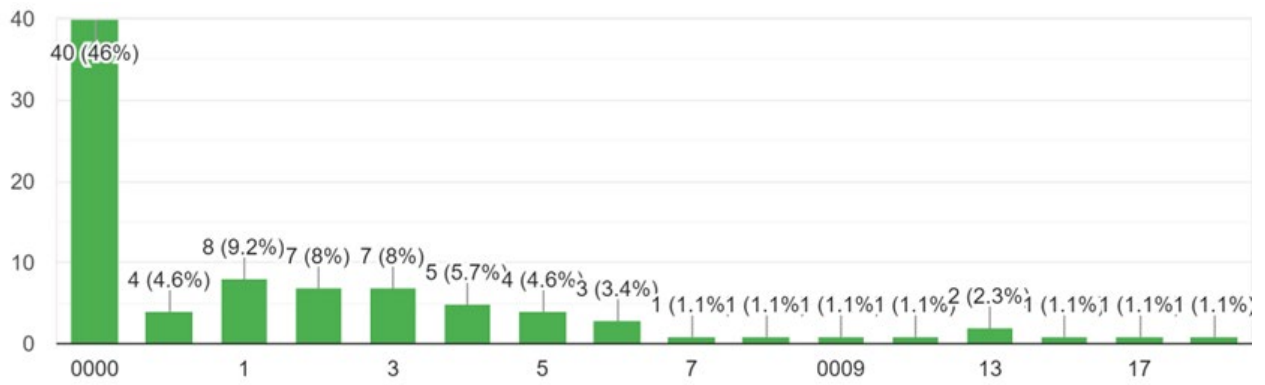


図16. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数（身分や年齢などの制限なし）

### 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

#### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）を設けていると回答したのは 17 学協会（18.9%）（図2）であった。過去5年間の受賞者総数の結果が図17である。該当しない（わからない）の回答が、72 学協会あった。受賞者総数は「0～112」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅があった。受賞者総数の合計は 284 であった。

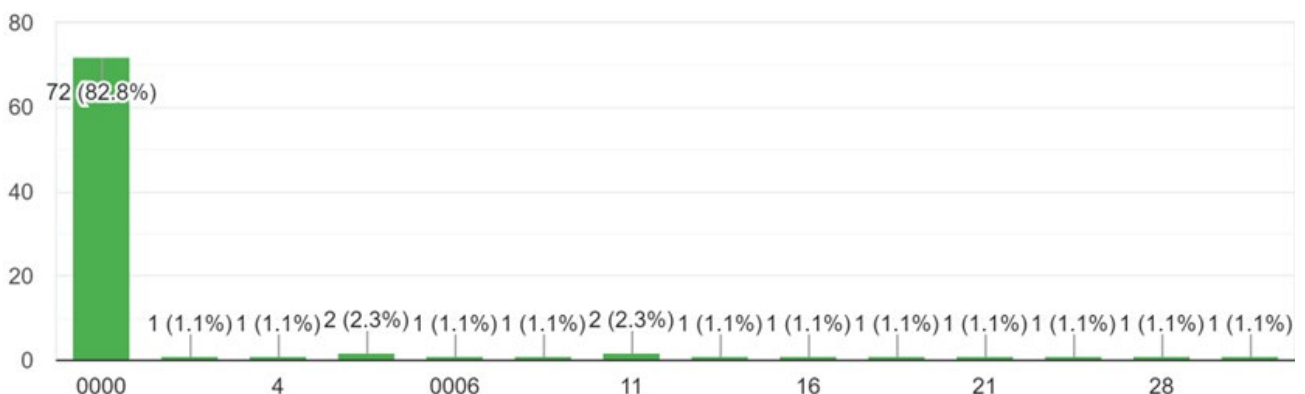


図17. 過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数（身分や年齢などの制限なし）

### √過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数

図17に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数が図18である。該当しない（わからない）の回答が、71学協会あった。女性受賞者の数は「0～42」の範囲にあり、「0」の学協会が6あった。女性受賞者数の合計は55であった。受賞者総数の合計(284)に比して、女性受賞者総数の割合は、19.4%であった。「制限なし」の女性受賞者の割合(9.6%)と比べて、「制限あり」(19.4%)の方が女性受賞者の割合が多く、一定の制限を設けることにより女性受賞者の割合が高くなることが示された。

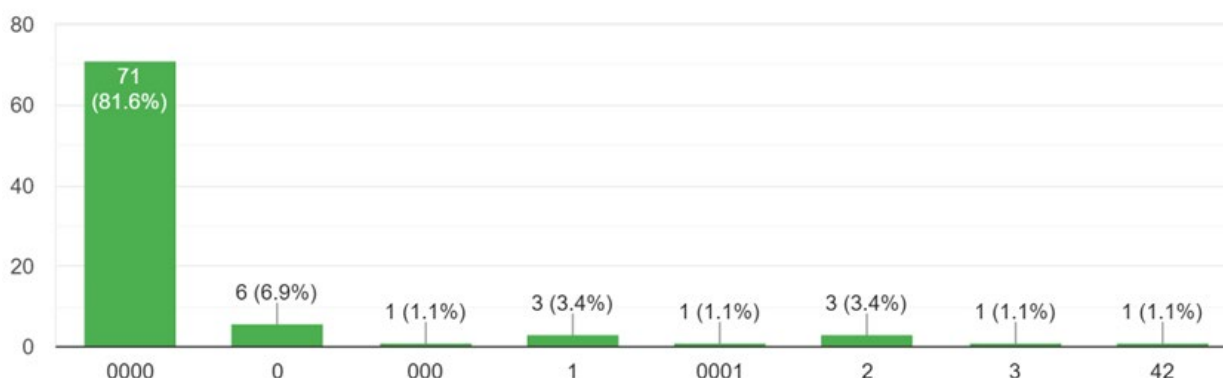


図18. 過去5年間（2017～2021年度）の女性受賞者の数  
(身分や年齢などの制限なし)

### 学会誌等に掲載された優れた論文の学生著者に対する賞の受賞者の女性比率

#### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数および女性受賞者数

学会誌等に掲載された優れた論文の学生著者に対する賞を設けていると回答した学協会は0であった(図2)。そのため、過去5年間の受賞者総数および女性者数の回答もゼロもしくは該当しない(わからない)であった。

### その他に対する賞の受賞者の女性比率

#### √過去5年間（2017～2021年度）の受賞者総数

その他の賞を設けていると回答したのは 19 学協会（図 2）であった。過去 5 年間の受賞者総数の結果が、図 19 である。該当しない（わからない）の回答が、37 学協会あった。受賞者総数は「0～145」の範囲にあり学協会の規模等に応じて大きな幅を持っていた。受賞者総数の合計は 439 であった。

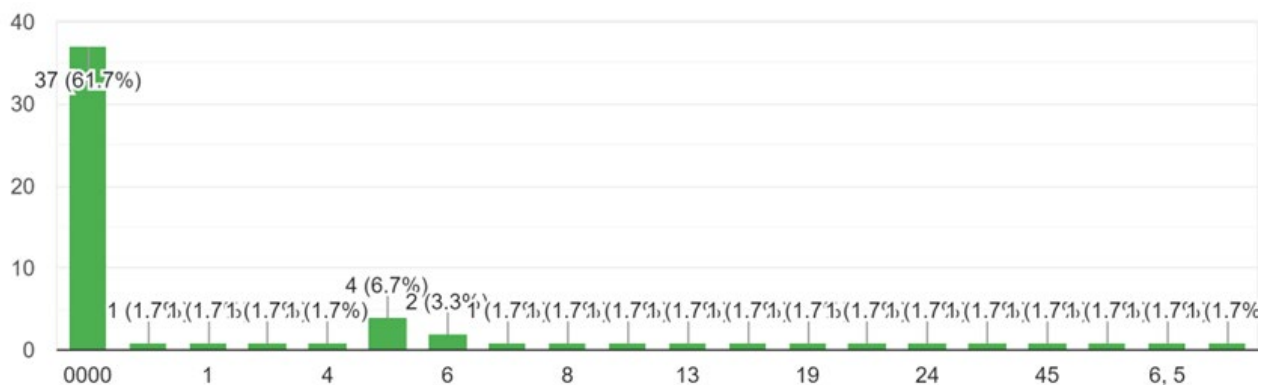


図 19. 過去 5 年間（2017～2021 年度）の受賞者総数（その他の賞）

✓過去 5 年間（2017～2021 年度）の女性受賞者の数

図 19 に示した受賞者総数のうち、女性受賞者の数が図 20 である。該当しない（わからない）の回答が、37 学協会あった。女性受賞者数は「0～29」の範囲にあり、「0」の学協会が 7 あった。女性受賞者の総数は 67 であった。受賞者総数の合計（439）に比して、女性受賞者数の割合は、15.3%であった。

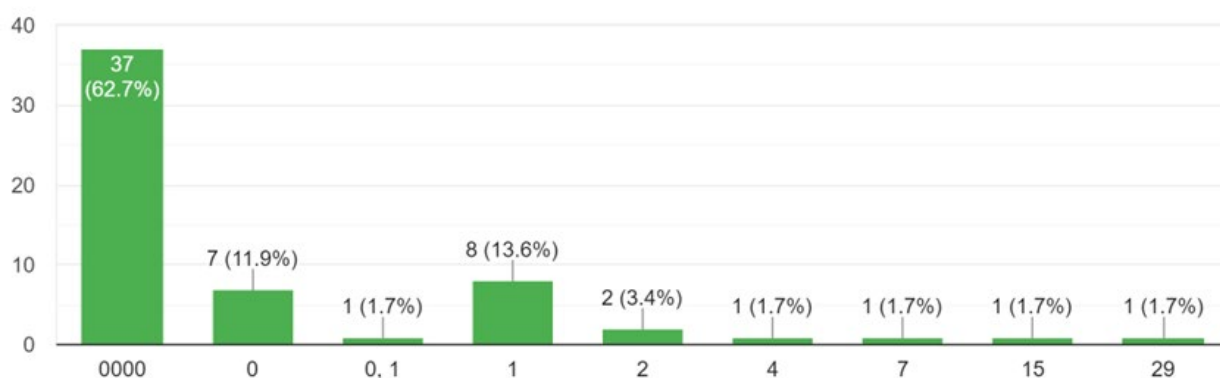


図 20. 過去 5 年間（2017～2021 年度）の女性受賞者の数（その他の賞）

-----

## シンポジウム・ワークショップ等について

### √男女共同参画シンポジウム・ワークショップ等の年間開催回数

調査に回答した87の学協会に対して、年間の男女共同参画シンポジウム・ワークショップ等の開催回数を尋ねたのが図21である。「0」と答えた学協会が22(25.3%)、該当しない(わからない)の回答が、4(4.6%)あった。「1」の回答が最も多く、43学協会(49.4%)あった。総数は106であった。過去の調査と比べて緩やかに増加している。

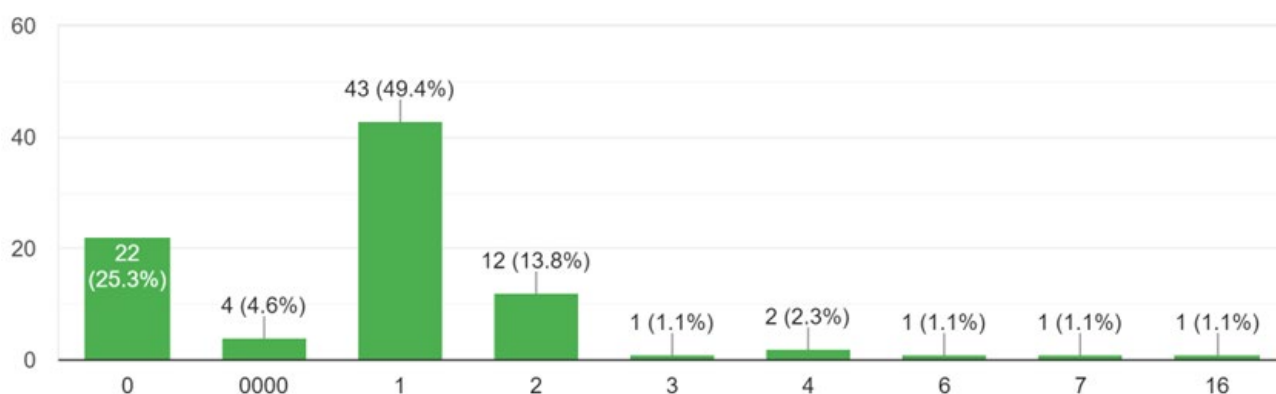


図21. 男女共同参画シンポジウム・ワークショップ等の年間開催回数

## 最近5年間(2017~2021年度)のシンポジウム・ワークショップ等におけるオーガナイザーの女性比率

### √2017~2021年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数

調査に回答した87の学協会に対して、2017~2021年度に開催したシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を尋ねた結果が図22である。該当しない(わからない)の回答が最も多く、39.1~55.2%を占めていた。オーガナイザーの総数は「0~345」の範囲にあった。各年度のオーガナイザーの総数の合計は、1925(2017年度)、1784(2018年度)、1998(2019年度)、1374(2020年度)、1697(2021年度)であった。2020年度が少ないのは、COVID-19による学会等の中止によるものかもしれない。



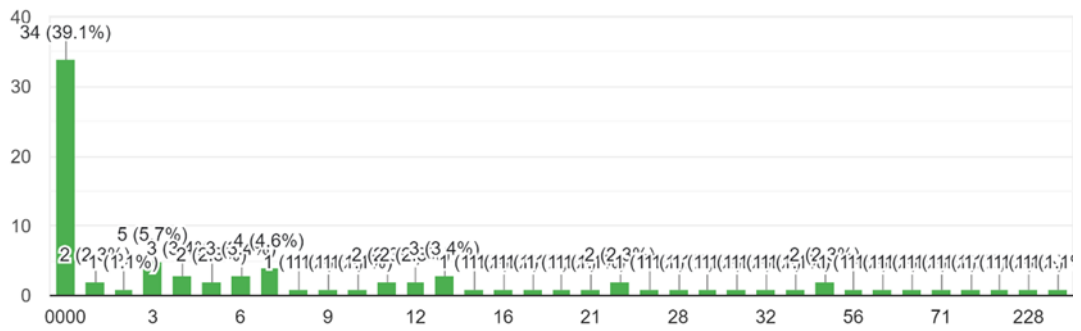
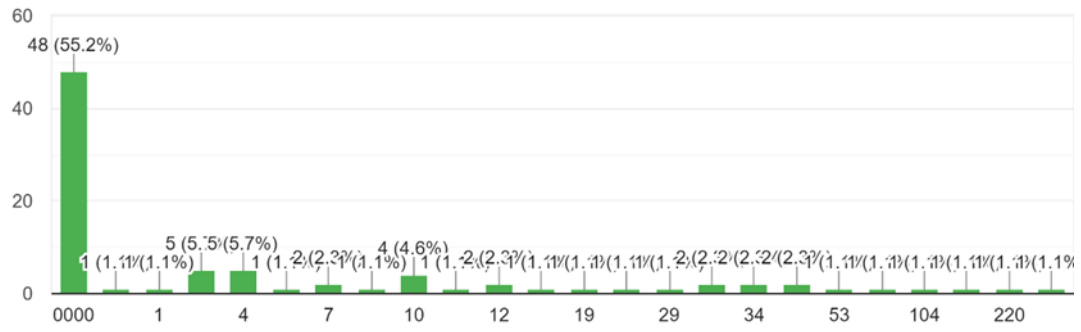
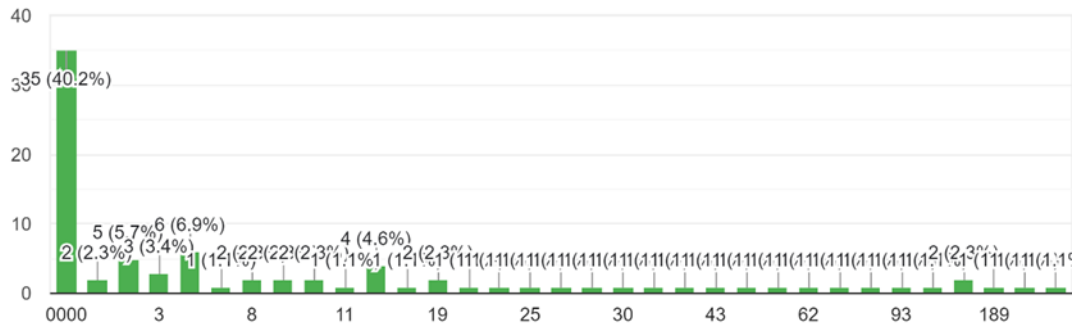
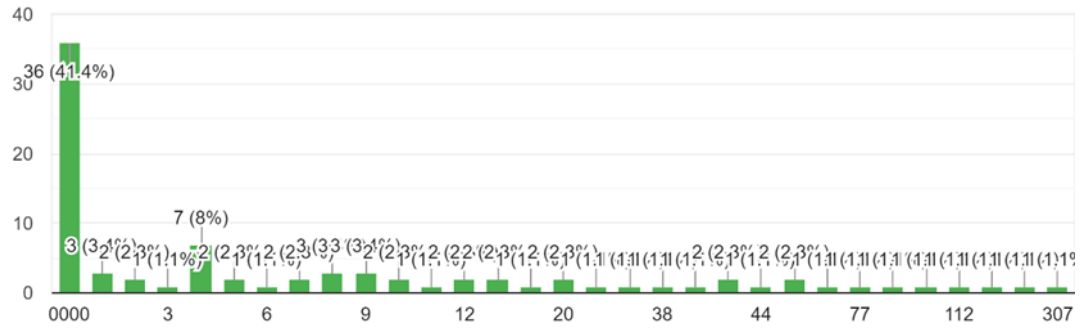
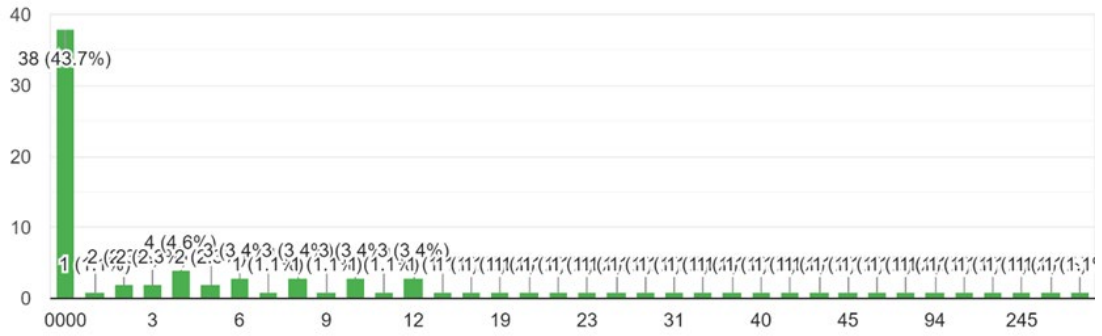
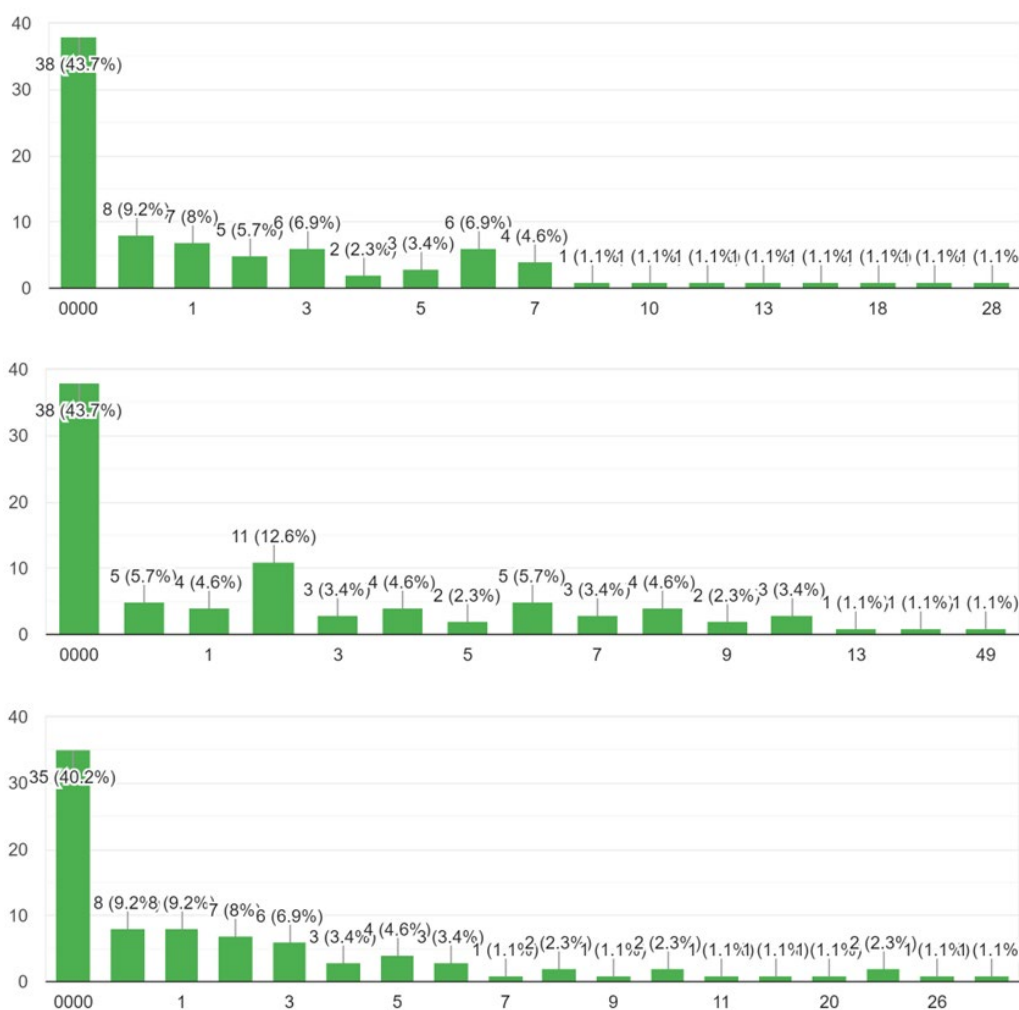


図 2 2. 男女共同参画シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数

(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

✓ 2017~2021 年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数

図 2 2 に示したオーガナイザーの総数のうち、女性の数が図 2 3 である。該当しない（わからない）の回答が最も多く、39.1~56.3%を占めていた。オーガナイザーの女性数は「0~42」の範囲にあった。各年度の総数は、246（2017 年度）、268（2018 年度）、297（2019 年度）、225（2020 年度）、286（2021 年度）であった。図 2 2 のオーガナイザーの総数に対するオーガナイザー女性数の割合は、12.8%（2017 年度）、15.0%（2018 年度）、14.9%（2019 年度）、16.4%（2020 年度）、16.9%（2021 年度）であった。女性のオーガナイザーの割合は徐々に増加している。



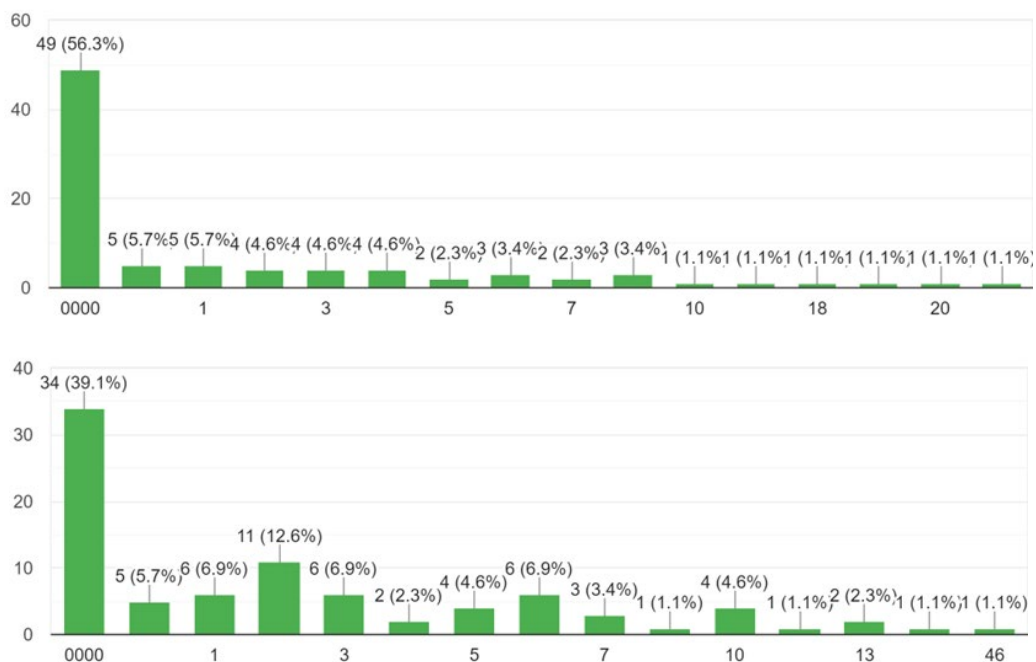


図 2 3. 男女共同参画シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数  
(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

## 最近 5 年間 (2017~2021 年度) のシンポジウム・ワークショップ等における講演者の女性比率

### ✓ 2017~2021 年度のシンポジウム・ワークショップの講演者の総数

調査に回答した 87 の学協会に対して、2017~2021 年度に開催したシンポジウム・ワークショップの講演者の総数を尋ねた結果が図 2 4 である。該当しない (わからない) の回答が最も多く、33.3~52.9%を占めていた。各年度の講演者の総数は、5721 (2017 年度)、5622 (2018 年度)、5940 (2019 年度)、3434 (2020 年度)、4027 (2021 年度) であった。2020~2021 年度は少ないがこれは、COVID-19 による学会等の中止によるものかもしれない。

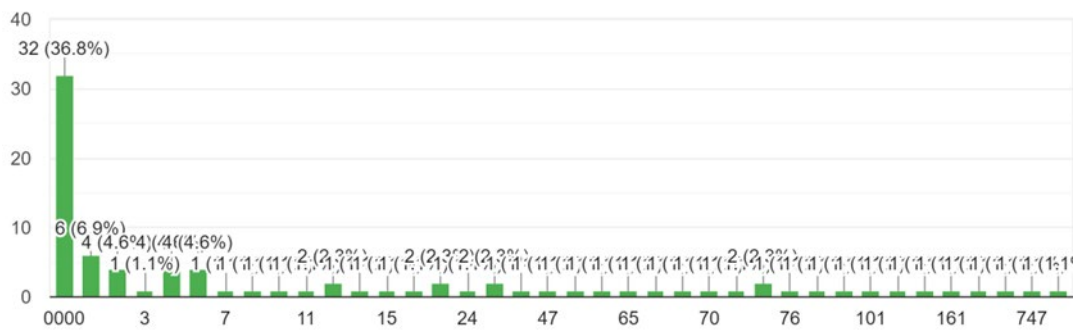
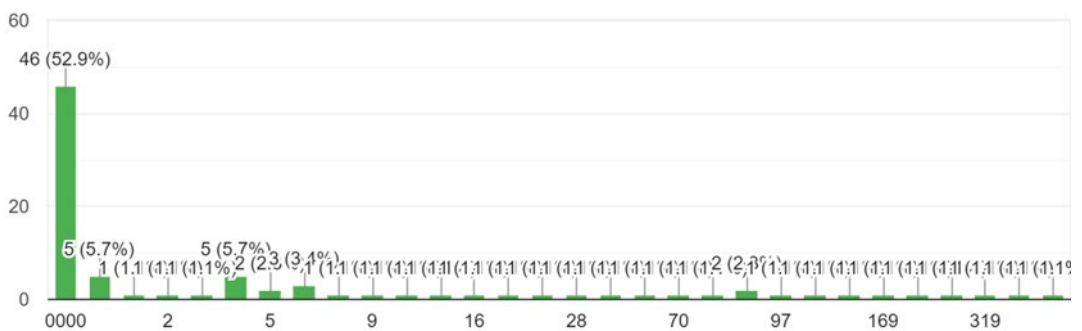
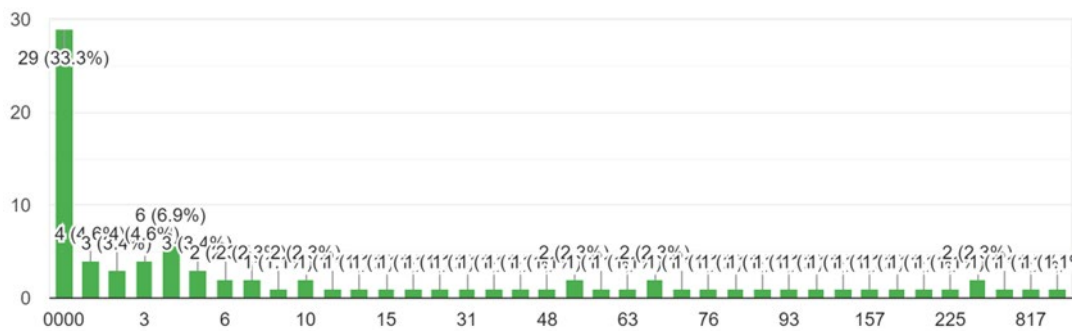
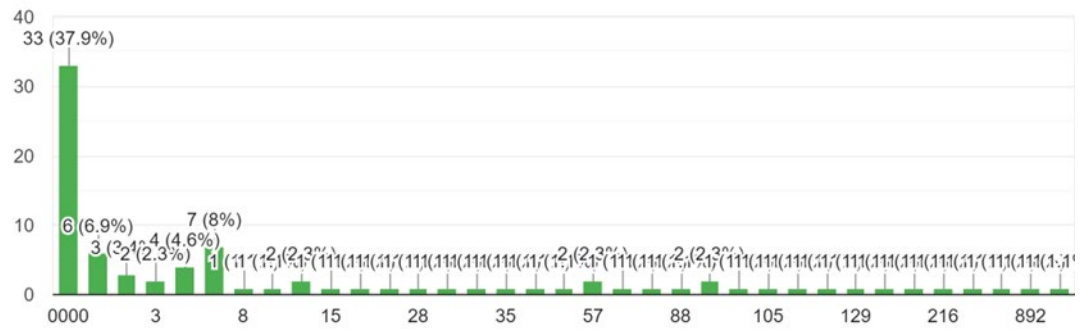
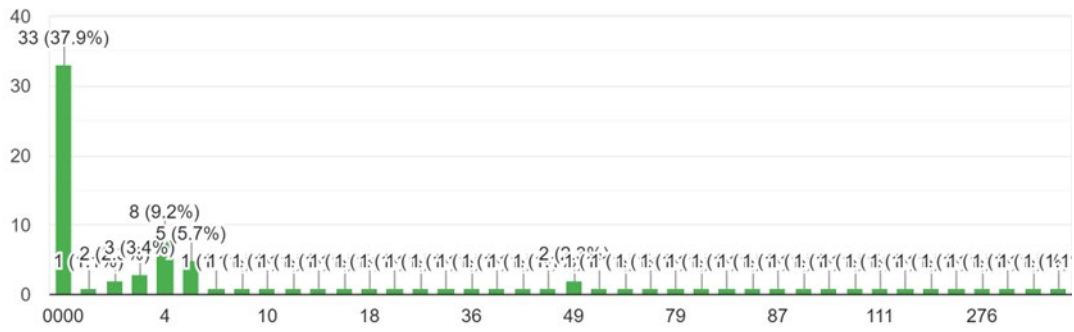
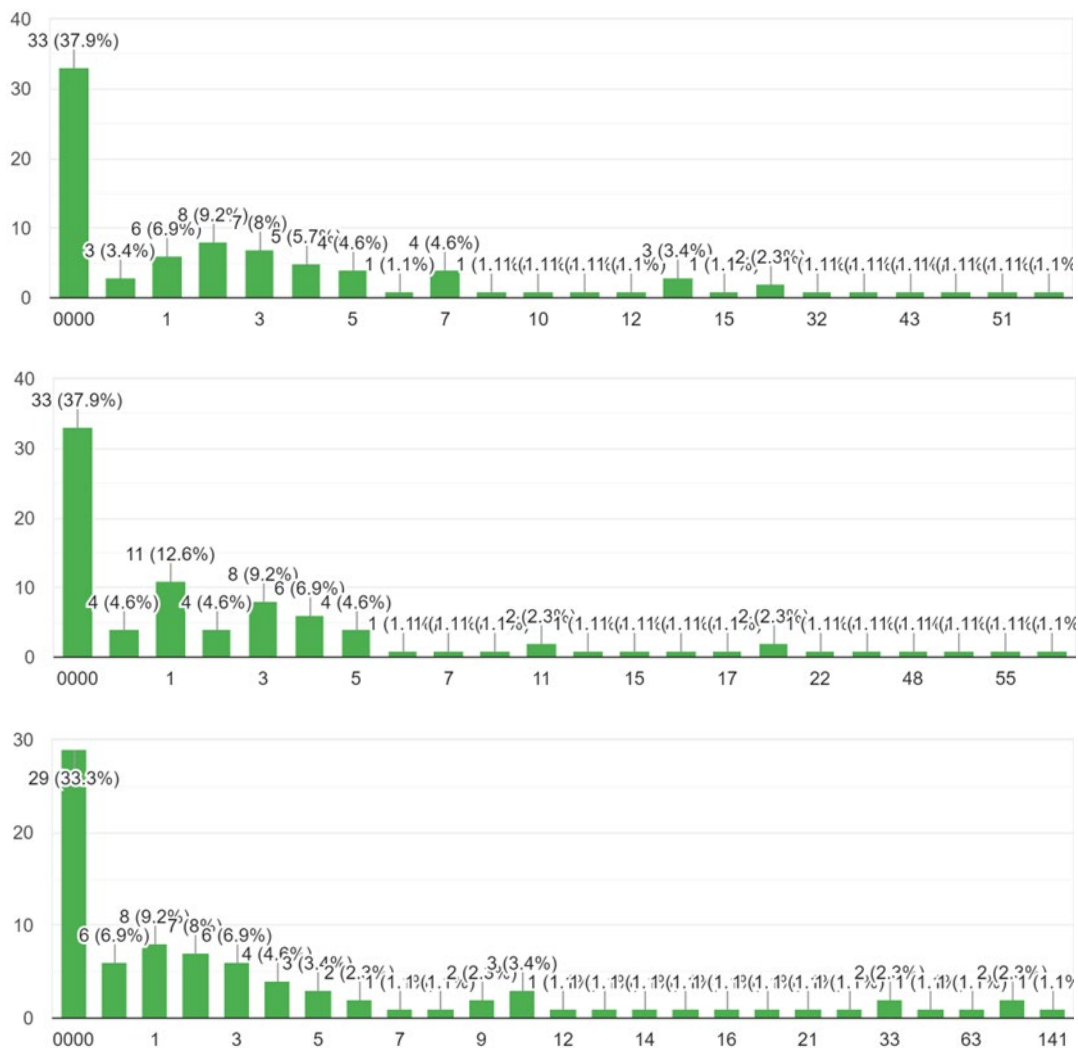


図 2 4. シンポジウム・ワークショップの講演者の総数

(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

✓ 2017~2021 年度のシンポジウム・ワークショップの講演者の女性数

図 2 4 に示した講演者の総数のうち、女性の数を尋ねた結果が図 2 5 である。該当しない(わからない)の回答が最も多く、33.3~52.9%を占めていた。各年度の女性の講演者の総数は、540 (2017 年度)、546 (2018 年度)、747 (2019 年度)、579 (2020 年度)、623 (2021 年度)であった。図 2 4 の各年度の講演者総数の合計に対する講演者の女性数の割合は、9.4% (2017年度)、9.7% (2018年度)、12.6% (2019年度)、16.9% (2020年度)、15.5% (2021 年度)であった。女性の講演者の割合は徐々に増加する傾向にある。



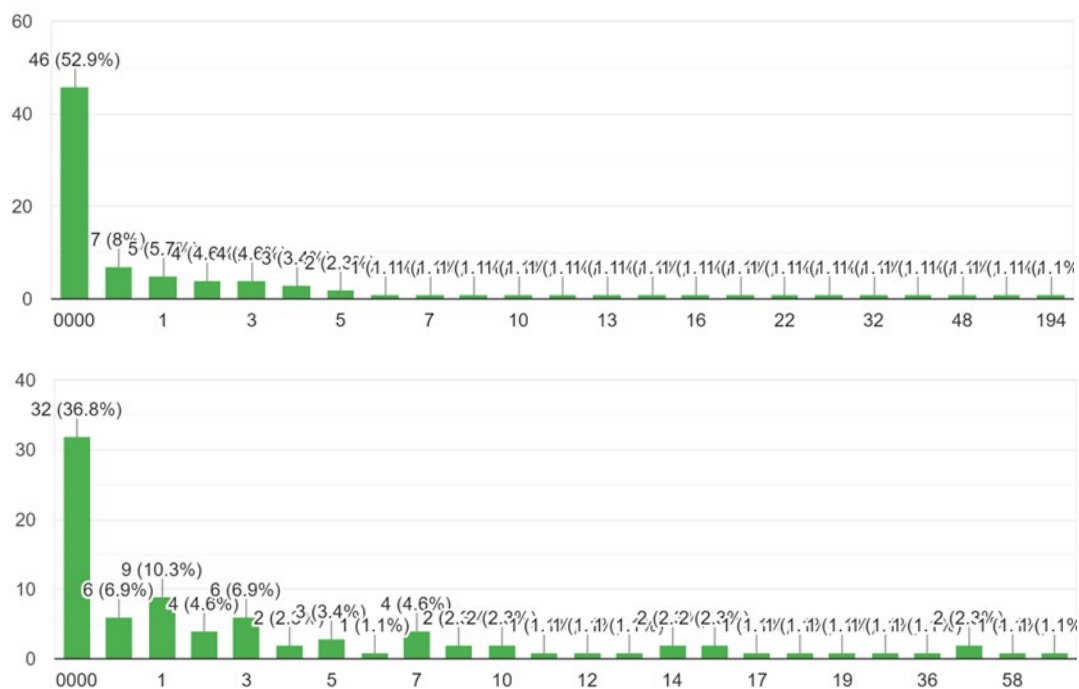


図25. 男女共同参画シンポジウム・ワークショップの講演者の女性数  
(上から2017, 2018, 2019, 2020, 2021年度)

## 最近5年間（2017～2021年度）に開催された学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員と学生会員の女性比率

√ 2017～2021年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数

調査に回答した87の学協会に対して、2017～2021年度に開催した学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を探った。各年度の正会員の参加者総数の合計は、75674（2017年度）、70229（2018年度）、71784（2019年度）、46062（2020年度）、60917（2021年度）であった。2020～2021年度が少ないのは、COVID-19による学会等の中止によるものかもしれない（図26のその他）。母数が比較的少なく、参加者の把握が難しいハイブリッド開催は除いて解析した。

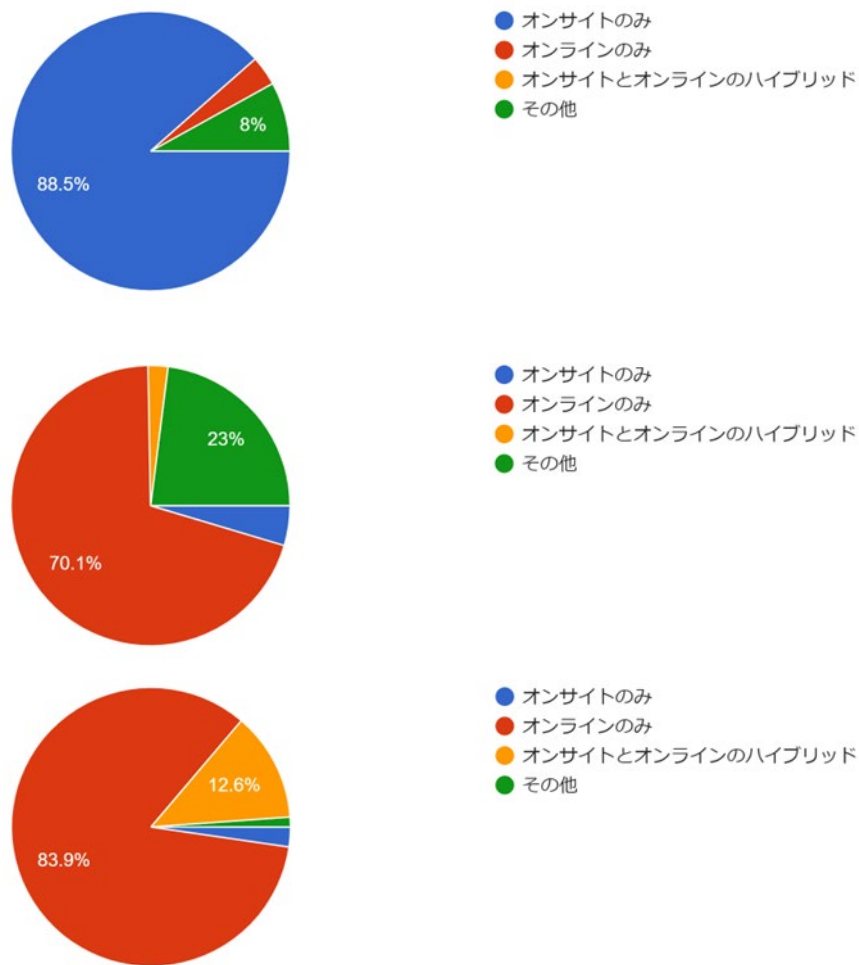


図 2 6. 2019～2021 年度の学術集会の開催方式

(上から 2019, 2020, 2021 年度)

✓ 2017～2021 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の女性数

正会員の女性参加者数が図 2 7 である。該当しない（わからない）の回答が最も多く、64.0～75.9%を占めていた。各年度の正会員の女性参加者数の合計は、3890（2017 年度）、3818（2018 年度）、4066（2019 年度）、2337（2020 年度）、4323（2021 年度）であった。正会員の参加者総数に対する女性参加者数の割合は、5.1%（2017 年度）、5.4%（2018 年度）、5.7%（2019 年度）、5.1%（2020 年度）、7.1%（2021 年度）であった。女性正会員の参加者の割合が増加しているか判断するためには、今後の継続的な調査が必要である。

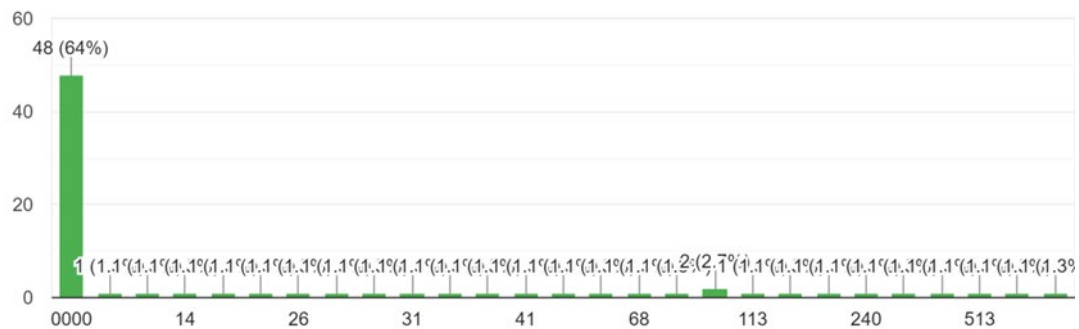
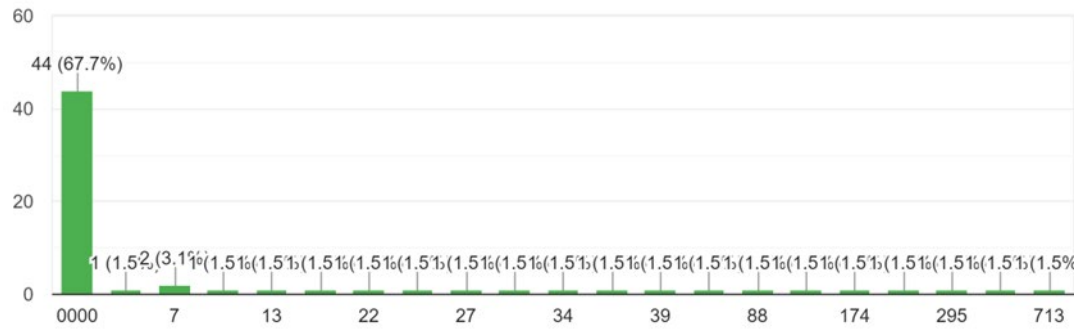
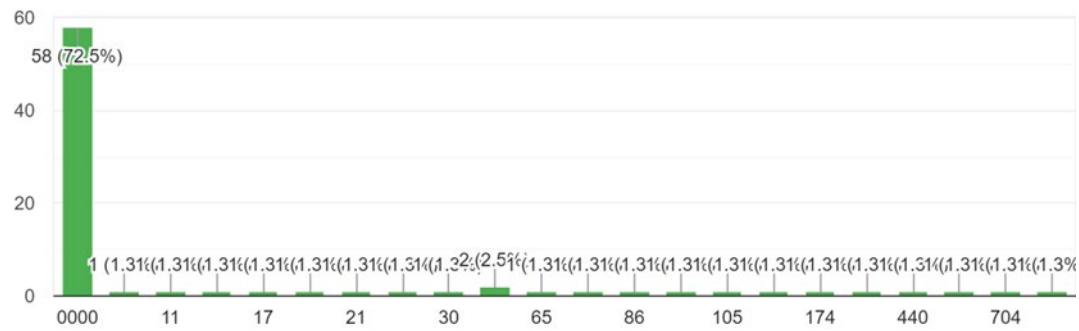
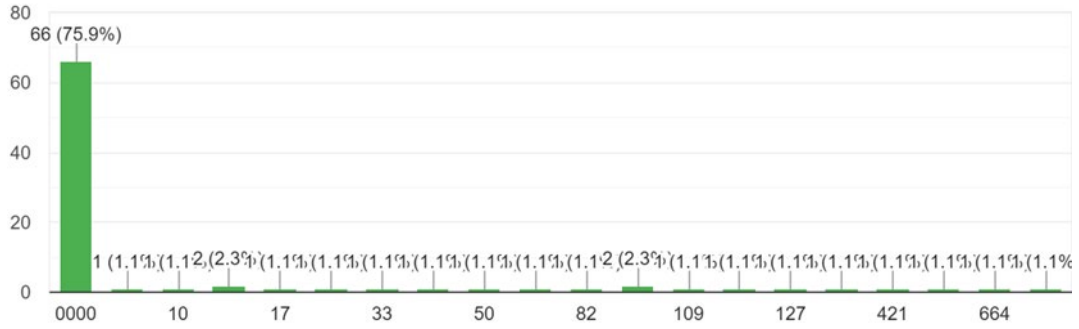
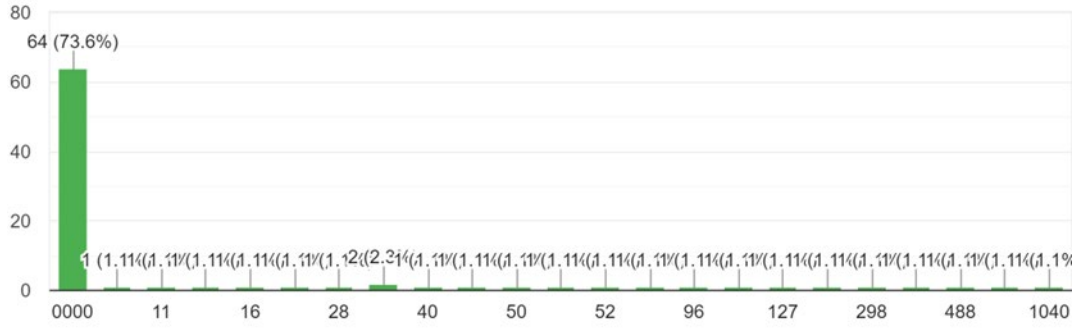


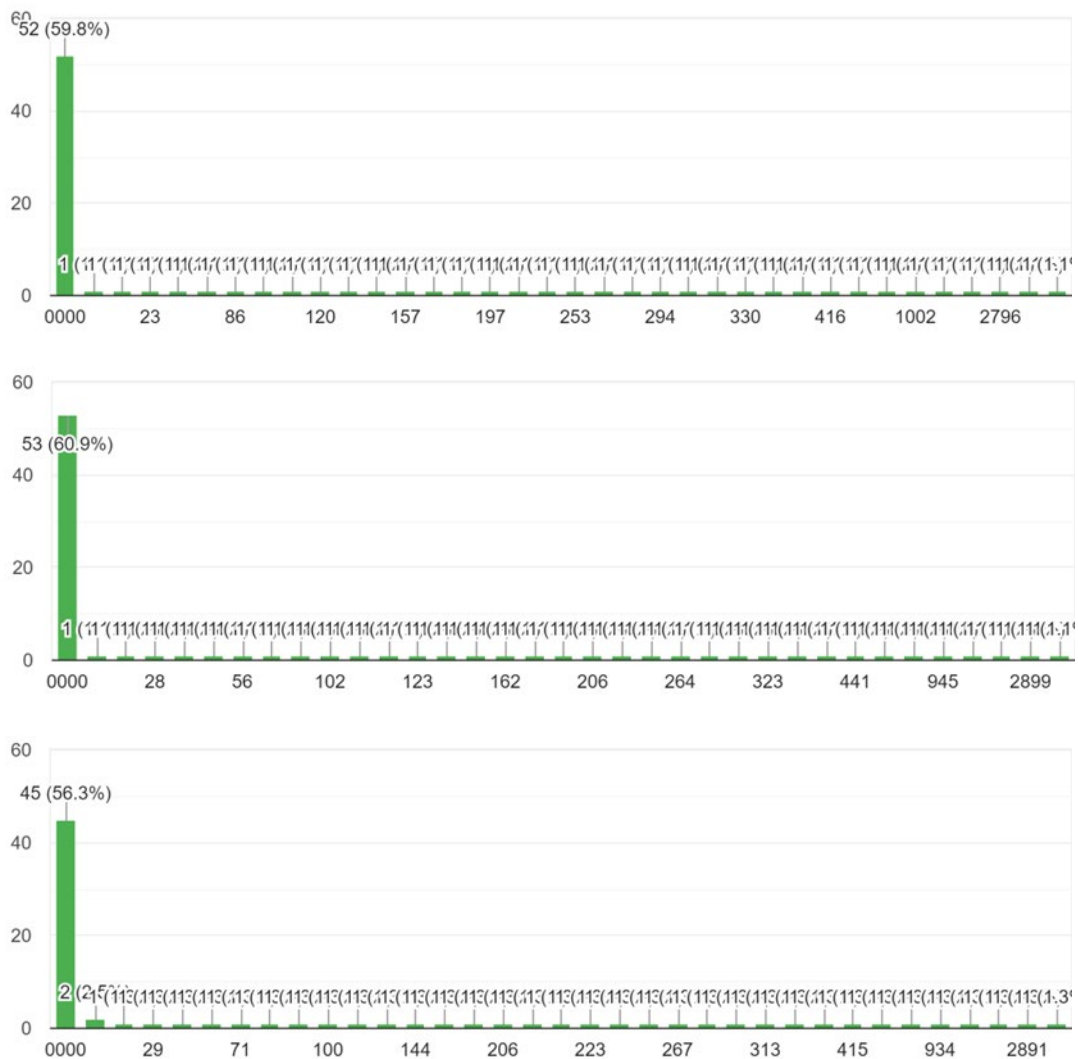


図 2 7. 学術集会への参加者の正会員の女性数

(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

✓ 2017~2021 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数

図 2 8 は学術集会への参加者の学生会員数である。該当しない（わからない）の回答が最も多く、40.0~60.0%を占めていた。各年度の総数は、21593（2017 年度）、18479（2018 年度）、19109（2019 年度）、15004（2020 年度）、21368（2021 年度）であった。



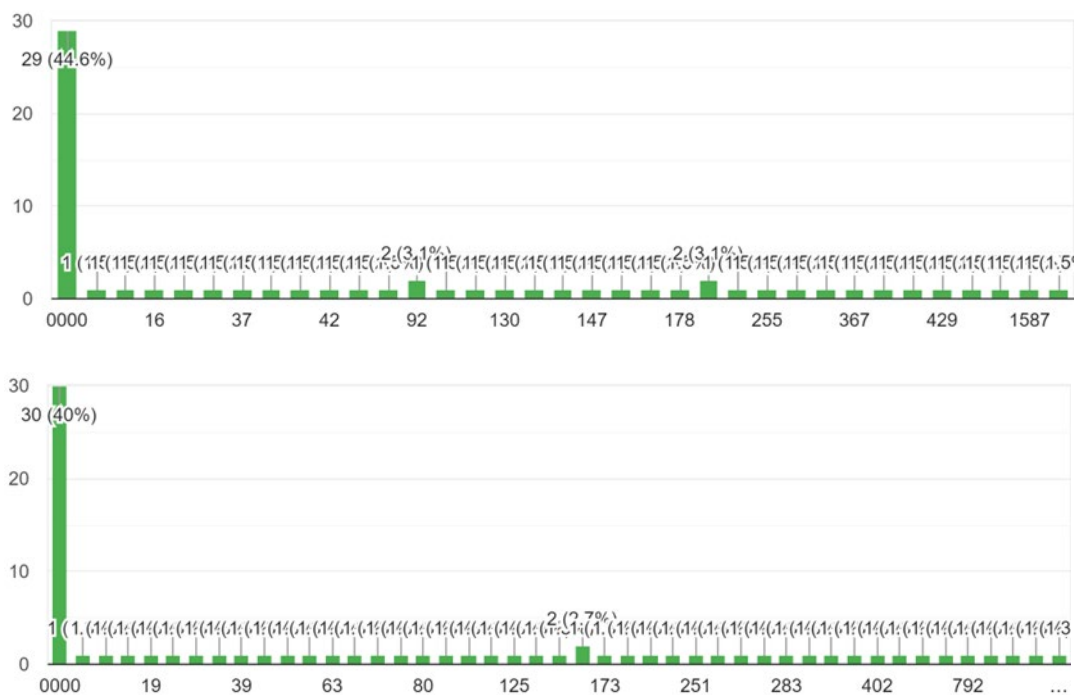
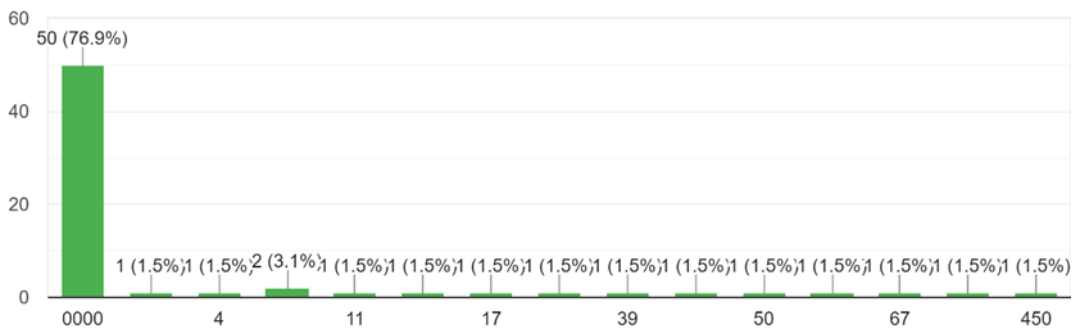
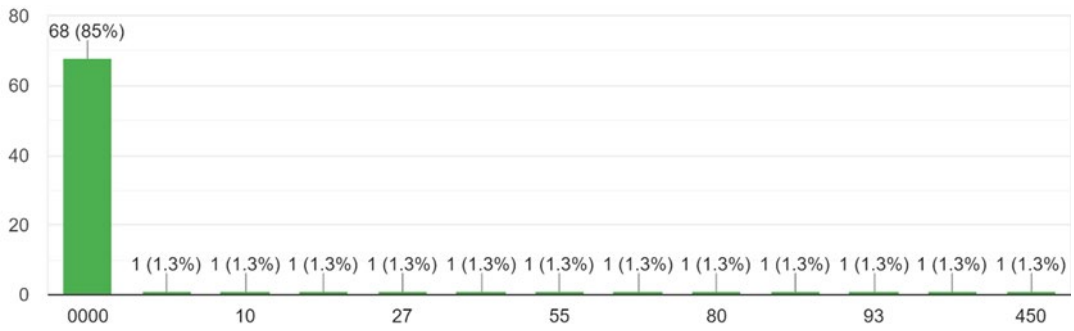
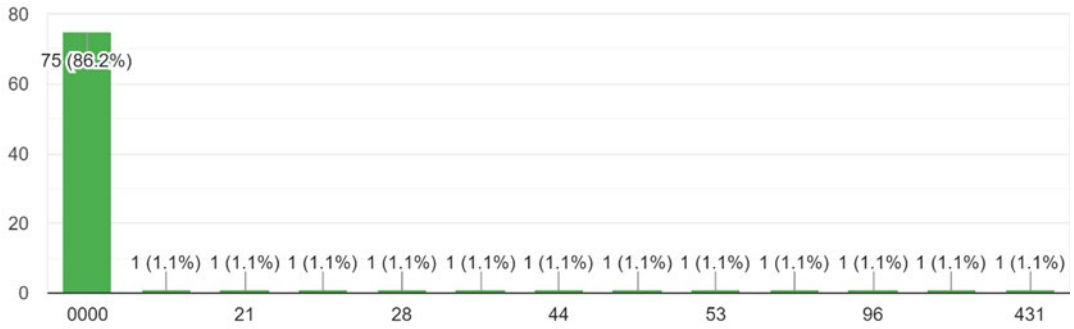
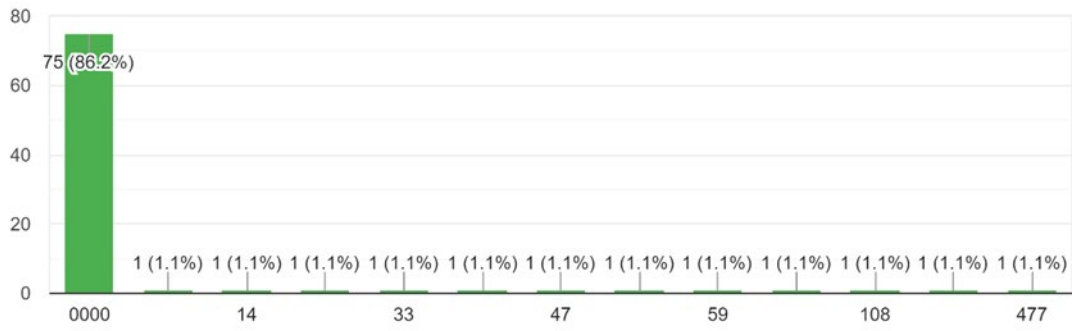


図 28. 学術集会への参加者の学生会員

(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

✓ 2017～2021 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数

図 29 は学術集会への参加者の女性学生会員の数である。該当しない（わからない）の回答が最も多く、76.0～86.2%を占めていた。各年度の総数は、1053（2017 年度）、957（2018 年度）、1042（2019 年度）、886（2020 年度）、1450（2021 年度）であった。参加者の学生会員総数に対する女性学生会員数の割合は、4.9%（2017 年度）、5.2%（2018 年度）、5.5%（2019 年度）、5.9%（2020 年度）、6.8%（2021 年度）であった。女性学生会員の参加者の割合が徐々に増加している。



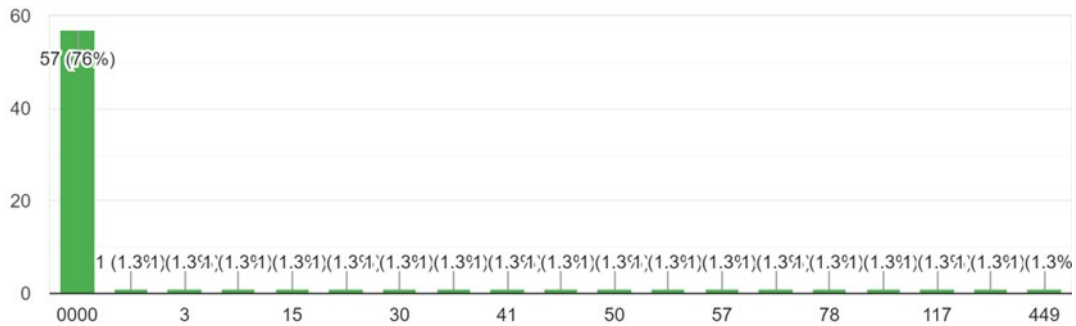


図 29. 学術集会への参加者の女性学生会員

(上から 2017, 2018, 2019, 2020, 2021 年度)

## 2021 年 10 月～2022 年 9 月期の保育支援について

### ✓ 保育支援の有無

図 30 は調査に回答した 87 学協会の 2021 年 10 月～2022 年 9 月期の保育支援を集計した結果である。COVID-19 の蔓延時期と重なるためか、「オンラインのみなので、該当しない」が 50.6% と半数程度を占め、次いで、保育室を設けた (19.5%)、金銭的援助を行った (12.6%) が続いた。「何もしなかった」との回答も 13.8% あった。

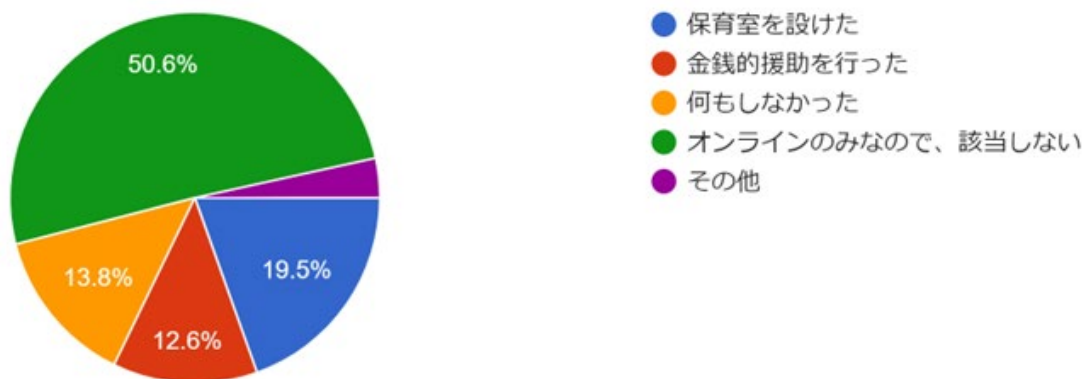


図 30. 保育支援の有無

### ✓ 保育室利用者の人数

保育室を設けたと回答した学協会（19.5%）に対し、1年間あたりの保育室利用者の延べ人数を尋ねた（図31）。その結果、利用者人数が0という回答が最も多く、17.6%であった。保育室の利用者の延べ人数の合計は130人であった。利用者は過去の調査と比べて大きく減少しているが、COVID-19の感染拡大の影響により子供同伴での学会参加をためらったためかも知れない。

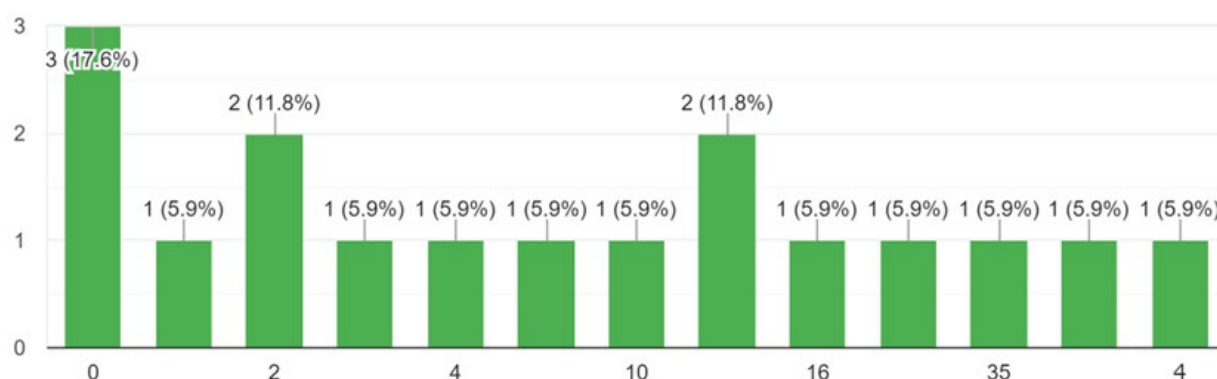


図31. 保育室利用者の延べ人数（保育室設置）

### ✓ 金銭的援助の人数

金銭的援助を行ったと回答した11学協会（12.6%）に対し、1年間あたりの利用者の延べ人数を尋ねた（図32）。利用者がいたのは4学協会でも利用者はいずれも1名であった。残りの7学協会は利用者がいなかった。

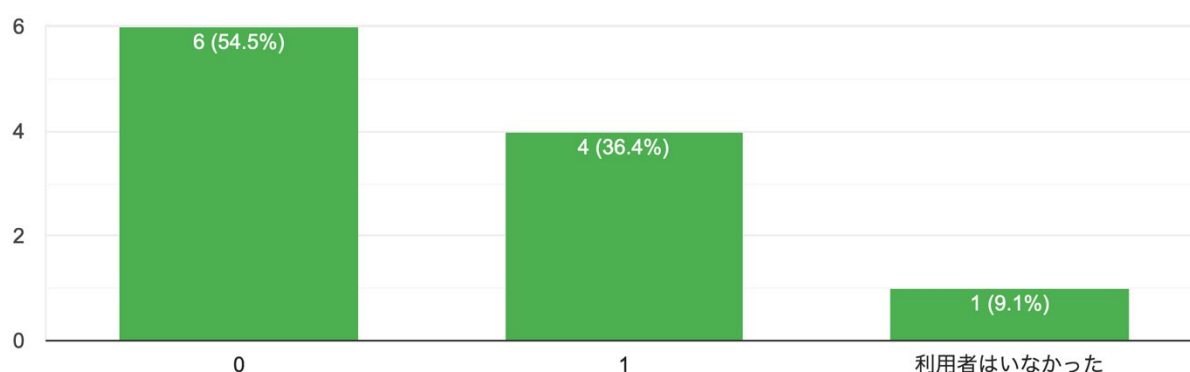


図32. 保育室利用者の延べ人数（金銭的援助）

✓ その他

その他の回答として、以下が寄せられた。

[金銭的に援助を行うべく、学術集会後に募集を行っている最中である。]

[年次大会にて、会場近くの保育施設を案内した。]

# 付録

## 2022 年度活動調査の設問内容

### 1. 学協会の活動調査（基本情報）

✓学協会名 ✓学協会の略称 ✓男女共同参画委員会・ワーキンググループ等の有無

### 2. 学会賞について

✓どのような賞がありますか

優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）

優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限あり）

女性賞

優れた業績の学生を表彰する賞

学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）

学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）

学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞

学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）

学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）

学会誌等に掲載された優れた論文の学生著者に対する賞

学会で授与する賞はない

その他

✓女性賞にチェックした方は、名称と設置年及び内容（顕彰の目的、副賞や研究助成金、人数の上限など）を記入して下さい。

✓その他にチェックした方はどのような賞か説明をお願いします。

### 3-1. 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

✓過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

### 3-2. 優れた業績の研究者を表彰する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

✓過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

### 3-3. 優れた業績の学生を表彰する賞の受賞者の女性比率

✓過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-4. 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-5. 学術集会での優れた発表を行った研究者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-6. 学術集会での優れた発表を行った学生に対する賞の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-7. 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限なし）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-8. 学会誌等に掲載された優れた論文の著者に対する賞（身分や年齢などの制限あり）の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

3-9. 学会誌等に掲載された優れた論文の学生著者に対する賞の受賞者の女性比率

√過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。



### 3-10. その他に対する賞の受賞者の女性比率

✓過去5年間（2017—2021年度）の受賞者総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓過去5年間（2017—2021年度）の女性受賞者の数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

### 4-1. シンポジウム・ワークショップ等について

✓男女共同参画シンポジウム・ワークショップ等の年間開催回数を、数値（半角）でご回答下さい。

### 4-2. 最近5年間（2017～2021年度）のシンポジウム・ワークショップ等におけるオーガナイザーの女性比率。

✓2017年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2017年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2018年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2018年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2019年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2019年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2020年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2020年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2021年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2021年度のシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

### 4-3. 最近5年間（2017～2021年度）のシンポジウム・ワークショップ等における講演者の女性比率。

✓2017年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

✓2017年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2018 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2018 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2019 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2019 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2020 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2020 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2021 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の総数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2021 年度のシンポジウム・ワークショップ等での講演者の女性数を数値（半角）でご記入下さい。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

4-4. 最近 5 年間（2017～2021 年度）に開催された学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員と学生会員の女性比率を調べます。なお、正会員と学生会員を区別できない場合は、正会員の回答欄に全参加者の総数と女性数を記入してください。ここでの正会員とは学生以外の個人の会員（シニア会員、名誉会員等を含む）のことです。

√2017 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を、数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2017 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性正会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2017 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2017 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2018 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を、数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2018 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性正会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2018 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2018 年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には 0000（ゼロを 4 つ）を記入してください。

√2019年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を、数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2019年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性正会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2019年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2019年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2020年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を、数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2020年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性正会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2020年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2020年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2021年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の正会員の数を、数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2021年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性正会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2021年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

√2021年度の学術集会（大会・年会等）への参加者の女性学生会員の数を数値（半角）でご記入ください。該当しない場合には0000（ゼロを4つ）を記入してください。

4-5. 2019-2021年度に開催された学術集会の形式と参加者についてお伺いいたします。

√2019-2021年度に開催された学術集会の形式をお答えください [オンサイトのみ, オンラインのみ, オンサイトとオンラインのハイブリッド, その他]

5. 2021年10月～2022年9月期の保育支援についてお伺いします。

√保育支援をおこないましたか [保育室を設けた, 金銭的援助を行った, 何もしなかった, オンラインのみなので, 該当しない, その他]

√保育室を設けたとご回答いただいた方への質問: 1年間当たりの保育室利用者延べ人数を数値（半角）でお答えください。

√金銭的援助を行ったとご回答いただいた方への質問: 1年間当たりの保育室利用者延べ人数を数値（半角）でお答えください。

√その他とご回答いただいた方への質問: どのようなことを行われたのかお答えください。

## 付録2 各学協会の会員数と女性比率

	会員数			
	男性	女性	合計	女性比率
育種	1129	264	1393	19.0%
遺伝	600	161	761	21.2%
宇宙生物科学	151	57	208	27.4%
衛生	900	461	1361	33.9%
衛生動物	264	63	327	19.3%
映像情報メディア	2309	80	2389	3.3%
液晶	614	63	677	9.3%
園芸	1508	406	1914	21.2%
応用数理	1296	89	1385	6.4%
応用物理	18075	1305	19380	6.7%
解剖	1734	415	2149	19.3%
海洋	1248	152	1400	10.9%
化学	19275	2578	21853	11.8%
科学教育	1136	258	1394	18.5%
化学工学	5957	670	6627	10.1%
科学者会議	2738	362	3100	11.7%
火災	1086	51	1137	4.5%
加速器	906	36	942	3.8%
機械	32083	1146	33229	3.4%
技術士	18437	517	18954	2.7%
魚病	282	47	329	14.3%
魚類	1067	85	1152	7.4%
金属	4494	282	4776	5.9%
計測自動制御	4721	162	4883	3.3%
軽金属	1745	88	1833	4.8%
結晶	905	127	1032	12.3%
健康	204	281	485	57.9%
原子力	5705	322	6027	5.3%
建築	29567	5681	35248	16.1%
航空宇宙				
高血圧	3827	1231	5058	24.3%
高分子	6799	998	7797	12.8%
国際保健医療	367	661	1028	64.3%
コンピュータ外科	615	45	660	6.8%
錯体化学	927	120	1047	11.5%
蚕糸	340	80	420	19.0%
歯科基礎医学				
磁気				
脂質栄養	189	128	317	40.4%
質量分析				
自動車技術				
地盤工学	7159	406	7565	5.4%
獣医	2408	771	3179	24.3%
種生物	236	87	323	26.9%
食品科学工学	1731	593	2324	25.5%
植物	1287	433	1720	25.2%
植物化学調節				
植物生理	1482	467	1949	24.0%
植物バイオテクノロジー	608	188	796	23.6%
植物病理	1385	307	1692	18.1%
女性科学者の会	4	259	263	98.5%
女性技術者フォーラム	3	110	113	97.3%
情報処理	17848	1910	19758	9.7%
進化	963	239	1202	19.9%
神経科学	4413	1396	5809	24.0%
神経化学	886	310	1196	25.9%

	会員数			
	男性	女性	合計	女性比率
森林	1790	434	2224	19.5%
水産	2561	406	2967	13.7%
水産増殖	675	28	703	4.0%
数学	4701	338	5039	6.7%
数式処理	351	0	351	0.0%
生化学	5764	1676	7440	22.5%
生態	2968	956	3924	24.4%
生態工学	345	52	397	13.1%
生物物理	2314	407	2721	15.0%
精密工学				
生理	2006	574	2580	22.2%
石油	2532	126	2658	4.7%
セラミックス	3573	334	3907	8.5%
組織細胞化学	492	184	676	27.2%
体力医学	2924	863	3787	22.8%
蛋白質科学	1028	226	1254	18.0%
地球電磁気・地球惑星圏	627	81	708	11.4%
地球惑星科学連合	6122	2560	8682	29.5%
畜産	1346	331	1677	19.7%
地形学連合	344	38	382	9.9%
地質	2966	318	3284	9.7%
中性子科学	558	43	601	7.2%
痛風・尿酸核酸	465	88	553	15.9%
DNA多型	335	103	438	23.5%
データベース				
鉄鋼協会	7981	284	8265	3.4%
電気化学				
電子情報通信				
天文	2825	396	3221	12.3%
糖質	648	194	842	23.0%
動物	1574	409	1983	20.6%
土壌肥料	1519	377	1896	19.9%
土木	35437	2142	37579	5.7%
鳥	937	222	1159	19.2%
内分泌	6135	2980	9115	32.7%
内分泌攪乱化学物質	314	84	398	21.1%
熱帯医学	602	168	770	21.8%
熱帯生態			369	
燃烧	872	10	882	1.1%
農芸化学	7341	2536	9877	25.7%
バイオイメージング	190	51	241	21.2%
バイオインフォマティクス	713	101	814	12.4%
発生物				
繁殖生物	579	188	767	24.5%
比較内分泌	291	46	337	13.6%
表面真空	1534	105	1639	6.4%
物理	14798	1020	15818	6.4%
プラズマ・核融合	1400	53	1453	3.6%
分子生物	8815	3162	11977	26.4%
分析化学				
放射光	1097	85	1182	7.2%
放射線影響	628	180	808	22.3%
木材	1397	374	1771	21.1%
薬学	11651	4443	16094	27.6%
野生生物と社会	361	121	482	25.1%
流体力学	982	27	1009	2.7%
霊長類	359	110	469	23.5%
無所属				
その他				
合計				

注：学会会員数は男女共同参画学協会の「2021年学協会連絡会女性比率調査」より引用

[[https://djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2021\\_ratio/2021ratio\\_table\\_202110120a.pdf](https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2021_ratio/2021ratio_table_202110120a.pdf)]

本報告書に関する問い合わせは、以下のホームページをご覧ください。

男女共同参画学協会連絡会ホームページ

<https://djrenrakukai.org/index.html>

本報告書の内容を引用する場合は、以下の例を参考にして、出所を明示して下さい。

【記載例】

- ・引用部分に、「2022 年加盟学協会の活動調査解析報告書」男女共同参画学協会連絡会（2022）と表示
- ・引用文献として記載する場合の情報としては、  
「2022 年加盟学協会の活動調査解析報告書」男女共同参画学協会連絡会（2022） pp. 20  
などと表示

2022 年加盟学協会の活動調査解析報告書

令和 4 年 10 月

男女共同参画学協会連絡会